

# 平成 29 年度 事業報告書

(ホームページのみ掲載分)

13 組織別の活動状況.....	2
(1) 会議等.....	2
(2) 委員会の活動.....	2
(3) 部会の活動.....	11
(4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動.....	22
(5) 関東甲信地域の県支部の活動.....	37

## 平成 29 年度事業報告書ホームページ掲載 一般事業

### 13 組織別の活動状況

#### (1) 会議等

定款に規定する会議を次のとおり開催した。

##### 1) 総会

第 59 回定時総会を 6 月 20 日に開催した。議題は付属明細書を参照。

##### 2) 理事会

理事会を 7 回（うち臨時理事会 1 回）開催した。議題及び理事会において審議または報告された規程類の制定・変更の内容は付属明細書を参照。

#### (2) 委員会の活動

##### (a) 常設委員会

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、常設委員会相互の連絡及び調整のため、常設委員長会議を 6 回開催した。会議の開催状況及び審議事項等並びに各常設委員会等の開催状況は付属明細書を参照。

##### 1) 倫理委員会

「綱領小委員会」、「啓発小委員会」、及び「情報小委員会」の 3 小委員会、並びに「倫理教育検討ワーキンググループ」により活動した。

主な活動は、次の通りである。

- ① 倫理綱領改定検討の足掛かりとして海外を含む他学協会の動向を調査するとともに、会員向け HP への倫理事例の掲載を視野に入れ備えるべき要件（利用目的と具備する情報、構成など）について検討を進めている。
- ② 第 9 回技術者倫理シンポジウムは、「科学技術の進展と社会への影響～リスクにどう向き合うか～」をテーマとして、5 月 15 日に学士会館において 3 名のご講演とパネルディスカッションの構成で開催した。聴講者は 105 名で、ここ 5 年間で最多の参加者を得た。月刊「技術士」2017 年 11 月号に開催報告を掲載した。
- ③ 第 44 回技術士全国大会（山口市）において第三分科会として「次世代技術者の育成と技術者倫理」を 10 月 21 日に山口県健康づくりセンターで開催し約 200 名の参加を得た。この開催に伴い、昨年まで 4 年間開催していた「技術者倫理ワークショップ」の開催は見送り、昨年まで関係者のみで行われていた情報交換の場を倫理委員会主催の公開行事「技術者倫理情報交換会」として 10 月 20 日に開催し約 50 名の参加を得た。月刊「技術士」2018 年 3 月号に両行事の開催報告を掲載した。
- ④ 日本工学教育協会「技術者倫理調査研究委員会」の参加組織として、「技術者倫理教育における学習・教育目標」の活用検討に参画した。倫理教育検討ワーキンググループでは、同「学習・教育目標」を基に、技術士が大学・高専等で講義を行う際に参考となる教材作成に向けての基本的な考え方、取り纏め方針、教材の構成案を策定した。月刊「技術士」2017 年 6 月号に同ワーキンググループの活動状況を報告した。
- ⑤ 月刊「技術士」に、「技術者倫理シリーズ」7 編（2017 年 5, 6, 8, 9, 10, 12 月号、2018 年 2 月号）を掲載した。また、2018 年度の月刊「技術士」の倫理コーナーの掲載内容及び今後の執筆者選定方針等について広報委員会との合同検討会議で検討した。
- ⑥ 日本工学会「技術倫理協議会」の参加組織として、2017 年度の第 13 回公開シンポジ

ウム「人工知能と技術倫理」を企画検討、開催に参画した。

## 2) 総務委員会

平成 28 年度に続き諸制度の検討、規則、諸手引きの制定、改訂、廃止の検討並びに会員による活動グループの管理等を行った。主な内容は次の通り。

- ① 役員候補者選出選挙における WEB 立候補制度の検討を行った。
- ② 長期在会者等に対する会費減免制度の検討を行った。
- ③ 平成 29 年度新名誉会員、フェロー、会長表彰者の審査及び推薦を行った。
- ④ 活動グループの活動報告書を審査し、問題ないものについて理事会に報告した。
- ⑤ 関東甲信 8 県の支部長会議を開催し、統括本部支部間の情報連携を図った。
- ⑥ 平成 28 年度に引き続き、地域本部関連事項検討小委員会を継続し、地域本部からの提案事項など対し検討を行った。
- ⑦ 常設委員会などから依頼のあった諸規則の制定、変更、廃止について審議し、助言を行った。

## 3) 企画委員会

- ① 現役若手世代の CPD 活動の活性化に向けて、必要な予算措置を講じた。
- ② 対外活動促進費の運用規則を変更すると共に、講演講師の謝金を補助の対象とするなど、対外活動の活性化を図った。
- ③ 会員の会務活動中の事故に対する見舞金制度を創設した。
- ④ 他学協会との会費格差僅少化の検討を行った。
- ⑤ 前期に引き続き、予算申請ヒアリングを行い平成 30 年度の予算編成を実施した。
- ⑥ 一般事業会計における新たな積立金の設置を検討した。

## 4) 研修委員会

「継続研鑽小委員会」、「技術系人材育成小委員会」及び「CPD 審査調整会議」により活動した。主な活動内容は以下のとおりである。

- ① 「技術士 CPD ガイドライン（第 2 版）」、及び「同（第 3 版）」により、技術士 CPD 登録証明書の発行申請、技術士認定会員の申請に対し承認した。なお、CPD 登録証明書の発行件数は 782 件（対前年 32 件減）であった。
- ② 技術士及び技術士 CPD 制度に関する関係学協会との連携を深めるため、日本工学会、日本技術者教育認定機構（JABEE）、建設系 CPD 協議会、土木学会等の委員に会員を推薦した。
- ③ 研修委員会委員 11 名を CPD 審査員として委嘱し、CPD 定期審査を実施した。今年度は技術士認定会員の約 10%にあたる 60 名を対象に CPD 記録の内容を審査した。
- ④ 技術士 CPD 規則を改定し、「技術士 CPD ガイドライン」の位置づけを明確にした。
- ⑤ 技術士 CPD 登録を促進するため、見やすいホームページのあり方及び CPD 内容記載例の充実、上手な CPD 単位取得方法の提示について検討した。
- ⑥ 修習技術者への PR 戦略として平成 27 年度に改訂された「修習技術者ガイドブック（第 3 版）」の普及のため、修習技術者向けパンフレット PPT「修習技術者として技術士をめざせ」を作成した。また、技術士を目指す一般技術者への PR 活動推進ツールとして PPT「技術士へのお誘い」を作成した。
- ⑦ 技術系人材育成の定義とあり方を検討するため、関連する委員会活動等について共起分析を行うとともに活動マップを作成した。

- ⑧ JABEE 認定大学からの講師派遣要請に対して、委員の中から講師を派遣した。
- ⑨ 建設系 CPD 協議会（19 団体加盟）事務局を昨年に引き続き引き受け、4 名の講師による「建設系技術者の継続教育を考える講演会」を開催した。また、CPD 機会の拡大、関連学協会との相互承認を推進するため本会の各組織から申請された技術士プログラムを同協議会のホームページに掲載した。本年度の掲載件数は 137 件（対前年 29 件増）であった。

#### 5) 広報委員会

月刊「技術士」編集チーム(×2)、特別企画チーム、対外広報チームの 4 チーム編成により、会員と会員、及び技術士会と会員とのコミュニケーションを図ることを目指して活動した。また、技術士会の外部に向けた戦略的な広報企画を行った。

主な活動は、次の通りである。

- ① 会誌「技術士」の企画・編集・発行（月 1 回）を行った。
- ② 特別号の企画・編集・発行（年 2 回）を行った。
  - ・2017 年 7 月：座談会「活躍する青年技術士」～頑張る技術士を見せる～
  - ・2018 年 1 月：会長対談(山東昭子議連会長、高木茂知会長)、部会長新年の抱負
- ③ ホームページの企画・立案・維持管理を行った。
- ④ パンフレット・ポスター・会誌等を、関係諸団体（官公庁、地方自治体、図書館、大使館等）への配布することにより、技術士の知名度向上を図ることを検討した。投稿の手引き、原稿執筆要領等を、現状に即して見直し変更した。

#### 6) 社会委員会

「司法小委員会」、「広報小委員会」の 2 小委員会により、以下の活動を行った。また、工事監査支援ワーキンググループも継続して活動を行った。

- ① 「司法小委員会」は、HP による広報、司法支援技術士名簿の充実を目指すとともに、裁判所から鑑定人等の推薦依頼が来た場合、手順に従って、適任と思われる鑑定人等の紹介を継続した。平成 29 年度の依頼件数は 6 件である。また、司法支援の内容と実際例に関する司法支援講習会を平成 30 年 5 月 26 日（土）に、4 名の講師による講演を開催する予定である。
- ② 「広報小委員会」は、事例発表グループ、HP グループ、情報集約グループの 3 チームに分かれて活動を行った。
  - ・事例発表グループは、電気電子、化学、建設の 3 部門の具体的活動事例について、5 名の講師による「第 8 回社会活動事例発表会」を平成 30 年 2 月 24 日（土）に開催し、40 名の参加を得た。
  - ・HP グループは、社会貢献ならびに社会委員会関連のホームページの記事を更新、充実を図り、技術士及び日本技術士会が行っている社会活動の具体的な紹介を行った。
  - ・情報集約グループは、技術士が行っている社会活動に関する情報を集約し、その情報を整理して、順次公開し技術士の社会活動を支援していくこととしている。
- ③ 社会委員会による社会活動のひとつとして、文部科学省研究振興局の依頼により、「平成 30 年度文部科学大臣賞（創意工夫功労者賞）の審査を行った。審査委員は社会委員会（10 名）、男女共同参画推進委員会（女性 2 名）である。なお、平成 30 年 1 月 29 日（月）に、文部科学大臣表彰審査委員会科学技術賞審査部会において、審査の経過を報告した。

④ 工事監査支援ワーキンググループは、本会に依頼された工事監査を実施（20 自治体）した。平成 29 年度は、平成 28 年度の実績が維持できた。

## 7) 国際委員会

前期に引き続き、「第 1 小委員会（統轄・広報）」、「第 2 小委員会（IEA）」、「第 3 小委員会（海外活動）」による活動の他、IEA-WG による日本技術士会の APEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システムの受審準備を行った。

主な活動は、次のとおりである。

- ① 日本技術士会としての海外活動に加え、会員の海外活動支援についても検討を始めた。
- ② 日本技術士会ホームページの英語ページの更新を行った。
- ③ 国際委員会のホームページの維持管理を行うと共に、より使いやすいホームページを目指した構成・コンテンツ刷新の検討を開始した。
- ④ 広報委員会と協業して月刊技術士への「世界への扉」の執筆者の調整を行った。
- ⑤ シンガポールの APEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システムを副査としてレビューを行った。
- ⑥ ペルーの IEA 正会員に係る審査を副査として行った。
- ⑦ 2018 年に予定されている日本技術士会の APEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システムの受審準備を行った。
- ⑧ 2017 年 6 月 19 日～6 月 23 日にアンカレジで開催された IEA 総会に参加し、相互認証等に関連する情報を収集した。

中国国家外国専門家局、豪州エンジニア協会、英国機械技術者協会、シンガポールエンジニア協会等、世界各国の技術者団体との間に締結した友好協定をもとに、具体的な活動へ向けた交渉を開始した。

## (b) 実行委員会

### 1) CPD 支援委員会

技術士 CPD の実践は、技術士法に定める技術士の責務であり、会員の CPD の一層の推進を図るべく、各種行事の企画・運営や教材の開発を行った。主な活動は次のとおりである。

- ① 土曜日の 13～17 時の「技術士 CPD 中央講座」を 5 回、平日の 18～20 時の「技術士 CPD ミニ講座」を 3 回開催した。
- ② 17 年 6 月に技術士活動実績の業績・研究の発表の場として「第 35 回技術士 CPD・技術士業績・研究発表年次大会」を開催した。22 件の論文応募のうち優秀な 8 件について口頭発表を行った。各部会の審査員協力を得て 3 件の優秀発表を表彰した。
- ③ 平成 29 年新年賀詞交歓会の前行事として「新春記念講演会」を実施した。光触媒の発見者である宇宙航空研究開発機構（JAXA）の國中均氏を講師に招いて「日本が拓く太陽系宇宙大航海時代」をテーマに講演頂いた。
- ④ 17 年 4 月の「技術士第二次試験合格者研修会」では合格者に CPD の重要性と技術士 CPD 制度の概要、CPD の実施・登録方法などを説明した。
- ⑤ 技術士 CPD 教材「農業・農村・食料をめぐる事情」を農業部会に依頼して作成し、平成 30 年 3 月に、会員サービスの一環として本会 HP の会員限定ページより PDF 版の無償頒布を開始した。
- ⑥ 17 年 8 月に「技術士と化学物質管理～優れた機能とリスク評価・管理～」をテーマとして技術士フォーラムを開催した。

## 2) 修習技術者支援委員会

修習技術者に対する IPD (初期専門能力開発) にための各種修習の場を提供することを主目的として①修習技術者研修会②修習ガイダンス③研修セミナー／キャリアプランセミナーを月例行事として行った (8 月は休会) 各行事の広報・案内は、メーリングリスト、WEB による告知を中心に行った。各行事については YouTube の配信システムなどを有効利用することにより情報共有における地域格差の是正に努めながら活動を進めてきた。

### ① 修習研修会 (8 回)

研修は、基本演習課題である、「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の理解と習得を目指して実施した。また、修習技術者発表研究会を開催し、発表者自身の業務を、他分野の人々にプレゼンすることにより、技術士として必要なプレゼン能力を習得する場とした。

### ② 修習ガイダンス 2018 (1 回)

技術士制度、第二次試験について、修習 (研鑽) すべきことについてのガイダンスを実施した。また、技術者から技術士へ～第二次試験を通過点として～パネル討論を行い、実際の体験談などを通して、実際の修習方法などを紹介し理解を深めてもらった。(JABEE, 一次試験合格者 (177 名) 技術士 (16 名) の計 193 名参加)

### ③ 研修セミナー (11 月) / キャリアプランセミナー (3 月)

11 月に第 30 回研修セミナーを実施した。持続可能な循環型社会実現に向けてをテーマに、持続可能な開発目標、2030 年に向けて何ができるかについて考えるグループ演習を行った。

平成 30 年 3 月にキャリアプランセミナーを実施し、技術士に必要なキャリアを認識した上で、技術士になるためのキャリアプランを作成することで、修習スケジュールの明確化と意識付けを行った。

上記①～③の活動で合計 419 名の参加者に対しての修習の場を提供した。

## 3) 青年技術士交流委員会

下記活動にて本会へ青年層として参画・協力した。

① ワークショップなどのアウトプット型の研鑽イベントやスポーツ交流を含む交流会を毎月 1 回以上の頻度で開催した。第一次試験・第二次試験合格者が 4 月の特別例会である合格者交流会まで継続参加でき、スムーズに入会に至れる動線の強化を行った。

② 特別例会として「第一次試験・第二次試験合格者交流会」を開催し、参加者の専門性をアピールする場として「社会貢献活動の新提案」をテーマに企画を実施した。

③ 社会貢献活動として、夏休みの小学生向けに理科教室を開催し、科学技術の普及と技術士の知名度向上を図った。

④ 産学連携活動として、埼玉大学で技術士説明会 (埼玉県支部と連携)、慶應大学で対話会 (慶應技術士会と連携) を実施し、学生との交流や技術士の知名度向上を図った。

⑤ 国際交流活動として、CAFE0/YEAFE0 へ参加し、ASEAN における技術動向確認および参加国の技術者との交流を深めた。また、日韓技術士国際会議におけるサッカー親善試合の開催支援を行った。

⑥ 技術士全国大会にて青年の集いと題し、統括本部および各地域本部の青年組織との交流、テクノツーリズムを実施し、活動内容の共有を促進した。

⑦ 第一次試験合格者向けガイダンスにてパネル討論会を実施し、第二次試験受験に向けたモチベーション向上に貢献した。また、その後に祝賀会を実施し、参加者同士の交流を促進した。

- ⑧ 平成 28 年度活動年鑑を制作した。また、ホームページや Facebook にて活動紹介、主催行事の広報および報告を積極的に行った。
- ⑨ 広報委員会や食品技術士センターと協力した青年座談会や例会を実施した。

#### 4) 技術士活性化委員会

「基礎研修小委員会」及び「業務支援小委員会」の 2 小委員会並びに情報発信メンバにより活動した。

主な活動は、次の通りである。

##### ①技術士開業研修会を開催した。

- ・ 入門コース…平成 29 年 5 月 9 日に開催し、74 名が参加した。
- ・ 実践コース…平成 29 年 6 月 2 日・3 日に開催し、37 名が参加した。

##### ②「技術支援基礎講座 ―JIS、法文書など公文書の書き方・著作権法について―」を平成 29 年 9 月 12 日に開催し、61 名が参加した。5 地域本部（北海道、北陸、中部、近畿、中国）と Web 中継を実施し地域展開を実施した。

##### ③「技術支援基礎講座 ―プロジェクトマネジメント革新―」を平成 29 年 11 月 14 日に開催し、55 名が参加した。6 地域本部（北海道、中部、近畿、中国、四国、九州）と Web 中継を実施し地域展開を実施した。

##### ④「技術支援基礎講座 ―企業支援における環境視点(省エネルギー・CO2 削減)の取組み―」を平成 30 年 3 月 28 日に開催し 77 名が参加した。地域本部（中部、近畿、中国）と Web 中継を実施し地域展開を実施した。

##### ⑤「知的資産経営 WEEK2017 セミナー ―知的資産経営における技術士への期待―」を平成 30 年 2 月 21 日に開催し、国の取組み及び技術士の取組みについて会員及び一般対象に紹介した。99 名の参加があった。4 地域本部（北陸、中部、中国、四国）と Web 中継を実施し地域展開を実施した。

##### ⑥外部から依頼された技術士紹介業務について約 110 件の依頼があった。技術士パーソナル DB に登録されている技術者に業務紹介を実施した。

##### ⑦平成 30 年 1 月 15 日、昨年実施した報酬アンケート結果の一般公開を実施した。

#### 5) 防災支援委員会

平常時における「地域の防災・減災活動」の支援を目指し、専門家の育成や委員会の活動広報、各地域本部や他組織との意義のある協力、共催を行った。主な活動は以下のとおりである。

##### ①平常時の「地域の防災・減災活動」の支援

- ・ 墨田区災害復興支援組織の活動において、墨田区防災フェアでのパネル展示・相談会を支援した。
- ・ 秋葉原駅周辺地域協議会において、外国人帰宅困難者の防災訓練を支援した。
- ・ 横浜市青葉区、青梅市で減災まち歩き及び減災マップ作りの講習会を開催した。

##### ②防災・減災に関するセミナー等の開催

- ・ 全国大会（山口）の関連行事として「第 13 回防災連絡会議」において、地域の活動報告、講演会、ワークショップを実施した。
- ・ 「第 22 回横浜震災対策技術展」において講演会及び防災展示を行った。
- ・ CPD 研修として、「熊本城天守閣復旧整備事業」に関する講演会を行った。

##### ③災害支援活動計画の策定

- ・ 平成 22 年に策定された BCP の改定を行い、「災害支援活動計画（SAPD）」と改め、技

術士の支援内容について検討を重ねるとともに机上訓練を行った。

④災害復興まちづくり支援機構での活動

- ・「首都防災ウィーク」において、ファミリー向けの展示会を開催し、防災クイズを実施した。

6) 科学技術振興支援委員会

本委員会は三つの小委員会から成る。各小委員会の活動は次の通りである。

①第一小委員会

- ・会員が行う理科教室、科学技術系イベント活動への支援  
理科支援活動への支援申請書及び申請要領について改定を行い、ホームページに公開した。29年度の支援件数は3月末で凡そ45件である。
- ・第59回科学技術週間行事におけるサイエンスカフェ講師への参加呼び掛け  
全国の会員に対しての上記行事への参加を呼び掛け、3名の技術士が講演した。
- ・理科教育支援活動を行う会員情報の維持管理  
全国の会員が実施した理科支援活動についての情報（対象者、実施内容、成果等）の充実を行い、データベース化を図るために検討中である。

②第二小委員会

- ・サイエンスアゴラへの参画  
科学技術振興機構(JST)が主催するサイエンスアゴラ2017に参加し、「ロボット技術の最先端で社会の障壁を越えろ！」と題して講演会を開催した。都産技研の瓦田研介博士ら3名から、最新の技術動向の講演およびロボットのデモンストレーションを提供いただいた。講演会ならびにデモンストレーションにおいて、技術士ほか大勢の方から活発な質疑応答がなされ、議論が尽きない中、好評のうちに終了した。また、開演時には文部科学大臣政務官 新妻秀規氏の訪問を受け、ご挨拶をたまわった。
- ・サイエンス・インカレへの参画  
全国の大学生・高等専門学校生が自主研究の成果を競い合う場として、文部科学省の主催により開催されているサイエンス・インカレの運営に参画した。本会にて設定した基準に従い応募論文ならびに口頭発表を審査し、優秀な研究に対し“公益社団法人 日本技術士会 会長賞”を授与した。この他、交流スペースにおける展示ブースにて技術士資格及び日本技術士会の活動を紹介した。

③第三小委員会

- ・第2回理科実験事例発表大会の開催  
理科教室活動等を行っている会員から、模範となる理科実験事例のWeb中継による発表が行われた。「サイエンスアゴラ参加者特別賞受賞」を受賞された慶応大技術士会外館秀一氏ら4組の発表、デモンストレーションがあり、その後の懇親会も盛況の中で終了した。今後も継続して毎年事例発表大会を行い、「理科教育用教材等事例集」の充実につなげていく。
- ・ホームページの充実  
継続して見直しを進めている。古い情報は削除しつつ、随時新しい情報に更新していく。

7) 日韓技術士交流委員会

韓国釜山広域市での第47回日韓技術士国際会議（釜山）及び兵庫県神戸市で開催予定の第47回日韓技術士国際会議（兵庫県・神戸）の企画・運営を中心に活動を行った。

主なものは以下の内容である。

- ① 第47回日韓技術士国際会議を韓国釜山広域市のロッテホテル釜山で開催した。総勢272名の参加者を得て盛大な行事となった。
- ② 本会議の企画・運営に当たっては、4月の釜山広域市での両国の合同委員会の開催等、韓国技術士会と緊密に連携し、無事開催することができた。



③ 上記国際会議の論文投稿要領について、現状を踏まえた見直しを反映し、日本側の論文様式の統一を行った。

④ 平成 30 年 10 月 17 日から 19 日にかけて開催予定の第 48 回日韓技術士国際会議（兵庫県・神戸）の基本計画を立案し、各種検討実施中である。

#### 8) 海外活動支援委員会

6 つの小委員会（研修、活動機会促進、情報統括、台湾、ベトナム、ロシア・中央アジア）を編成し、18 名の委員全員が何らかの実質的な活動に参画できるよう努めた。活動経験の豊富な小委員長を中心に、それぞれのメンバーが専門力を発揮し技術士海外活動業務の拡大、新規開発、後進への活動の継承を進めた。パーソナルデータベース登録者数は、303 名。

研修小委員会（畠山 晶小委員長）は、1 月 26 日（金）海外技術協力実務講習会を開催し、会員の海外活動への参画意識を高めた。

活動機会促進小委員会（鈴木陸夫小委員長）は、外部から寄せられた膨大な業務依頼案件をその都度会員向けに発信し業務契約マッチングに努めたが、成約に至ったのは 3 件に留まり今後の活動の課題が明らかになった。

情報統括小委員会（石井利教小委員長）は HP の整理、充実化を推進し、全委員が議事録、活動報告等を自らアップできる体制を整えた。

台湾小委員会（松井武久小委員長）は、台湾貿易センターを窓口に定期的な交流機会を継続できるよう尽力中だが、未だ具体的な交流機会の創出には至っていない。

ベトナム小委員会（坂本文夫小委員長）は、技術士の新規海外業務開拓、派遣国の拡大を目的として、ベトナムダナン大学との専門家技術交流、人材育成ワークショップセミナーの開設を構想し、先方との基本的な合意を獲得した。今回の成果は前期からのベトナムダナン市政府、ダナン工科大学出張調査、交流や定期的なフォードンの会開催（ベトナムからの留学生との交流会、人脈形成）などを母体として生まれたもので、2018 年 11 月以降の発展が期待される。尚、具体的なワークショップセミナーの内容や人選、経費分担などは担当窓口間でのメール交換で詰める。ベトナム側の要望に合う高度なレベルのセミナーを出来る技術士がどれほど集められるかが問われる。

ロシア・中央アジア小委員会（田中真也小委員長）は、地元社会主義国家政府との接触、人材交流の可能性について調査、模索中である。

#### (c) 個別規程による委員会

##### 1) 男女共同参画推進委員会

運営規則の変更を行い、委員定数を増やし委員補佐を設けた。

「女子学生・女性技術者支援に関する活動」と「ダイバーシティ&インクルージョンに関する活動」の目的を明確化した 2 つの小委員会を設置し、各々の目的に沿った活動を行った。また、ウェブサイトの「見える化」や「会員・準会員のキャリアモデル」を活用した広報の充実も図った。主な活動は以下の通りである。

①技術者・技術士を目指す女子学生・女性向けに技術サロンを東京で 4 回開催した。学生や女性技術者に、技術士制度や技術士に必要な能力の説明や、職場環境の悩みなど種々の質問に対してアドバイスを行った。

②女性会員・準会員の活動状況に関するアンケート調査を各地域本部等 35 組織へ実施した（回答率 88.6%）。結果は今後の委員会活動の参考とする。

③独立行政法人科学技術振興機構女子中高生理系進路選択支援プログラム「女子中高生夏

の学校 2017～科学・技術・人との出会い～」にポスター参画した。女子中高生へは技術者・研究者への進路紹介、アシスタントの大学生や関係者へは技術士資格を広報した。

④第 15 回男女共同参画学協会連合会シンポジウム（年次大会）において、技術士資格の広報や当委員会の活動を紹介するポスター展示を行った。また、シンポジウムに参加し産学におけるダイバーシティ推進の状況の情報を得た。

⑤月刊『技術士』に「男女共同参画シリーズ その 2」において、女性が技術士（技術士補）資格を活かして組織や地域においてリーダーシップを発揮しながら、活き活きと活動している状況を隔月で発信した。

⑥第 44 回技術士全国大会（山口）において当委員会の活動、キャリアモデル、女性技術者育成への提言などをポスターにて紹介、男女共同参画に関する意識啓発を行った。

⑦第 47 回日韓技術士国際会議の分科会で活動報告を行った。また、ポスター参加し、活動を紹介した。

⑧D&I 小委員会の活動を積極的に展開するため、委員会委員及び関係者の理解を深める目的で講演・ワークショップ形式の「D & I 学習会」を実施した（参加 20 名）。

⑨技術士第一次試験合格者・JABEE 修了見込者ガイダンスにポスター参加し、技術サロンの紹介やロールモデルの紹介を行った。

## 2) 技術士制度検討委員会

本委員会では、前期委員会の「技術士制度改革について（提言）」（中間報告）で取り上げた①更新制度、②技術士補の在り方、③国際通用性、④資格の相互活用の 4 項目を主要議題として検討を進めた。検討内容は以下の通りである。

### ①更新制度

現状の技術士資格の課題となっている、①資質向上の責務の確認が不十分②登録状況の把握が不十分の 2 点については早期に解決する必要がある。このための方策として、技術士全員を対象とした CPD の必須化、5 年に 1 回程度の講習会受講を義務化するなどの検討を行った。早期に具体案をまとめる予定である。

### ②技術士補の在り方

若手人材の技術士資格取得のため創設された制度であるが、受験者に占める比率は 1%程度と極めて低率となっている。このため技術士補制度を廃止すべきという意見もあり、今後の在り方策定の参考とするため広く会員にアンケートを実施した。1,600 弱の回答があり、現在分析中で、この結果を踏まえ改善案を検討していく。

### ③国際通用性

技術士は国内に比べ海外での認知度は低く、外国の技術者資格との相互認証も進んでいない。各国の技術者制度との比較を行い、技術士資格がどうすれば国際的に通用するのか制度検討特別委員会国際通用性作業部会と連携しながら検討を行った。

### ④資格の相互活用

技術士資格の公的活用については、平成 28 年度末現在、中央官庁が所管する 17 の資格において活用が認められているが、まだまだ不十分である。中間報告でとりあげた 11 の資格に関して精査を行い、関係官庁と交渉する準備を整えた。また、このほか部会を通じて追加資格の要望を募集中で、更なる対応を進めていく。

## (d) 役員候補者選出選挙管理委員会

1) 本委員会は役員候補者選出選挙及び地域組織における幹事選出選挙を所掌し、その事務を管理する。

## 2) 会議開催状況

本委員会は委員長、副委員長、幹事で構成する幹事会を設け、緊急性のある課題に対処し、また地域組織における幹事選出選挙の事務を管理することとしている。

平成 29 年度における活動は以下の通り。

### ① 平成 29 年 4 月 18 日

平成 29 年役員候補者選出選挙等開票作業のため開催

## (3) 部会の活動

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、部会相互の連絡協調及び部会活動の活性化に資するため、部会長会議を 4 回開催した。部会長会議の開催状況及び審議事項等、また、各部会の開催回数、部会における講演会及び見学会は付属明細書を参照。

### 1) 機械部会

毎月開催している幹事会で部会の活動内容の細目を決定している。幹事会の後に例会を開催し、2 講座あるいは 1 講座の講演を主に行っている。その他に今年は見学会を 1 回、土曜例会を 1 回開催した。

#### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

昨年は幹事会を金曜日以外にも開催したが、今年はすべて第二金曜日に開催をした。幹事会では各種審議事項の意思決定や理事会、部会長会議、委員会の報告などを行っている。

#### ② 講演会

幹事会の後に例会を行っている。例会はテーマにより 1 あるいは 2 講座の講演を行っている。講演後には講師及び会員の親睦を図るために懇親会を開催している。これらの講演は地域本部との交流を図るために Web 中継を行っている。九州、中国、中部とは毎月、北海道とは不定期で行っている。さらに今年は地域本部と双方向の交流がより活発になることを目指し、6 月と 8 月に 2 講座のうち、一講座を地域本部から講演頂いた。6 月は九州本部より、8 月は中国本部から行なった。

平日の例会では参加が難しい人のための土曜例会を今年は 9 月に開催をした。テーマはプレゼンテーションについてであり、相手に伝えるために何に注意しなければいけないかを考えさせられる興味深い例会となった。

山口市で行われた全国大会に合わせて中国本部、船舶・海洋／航空・宇宙部会と合同部会を開催し、中国本部の方々と親睦を深めることができた。

新合格者の歓迎会は例年通り一次、二次合格者合同で 4 月に行った。

また、日本機械学会の年次大会の中で日本技術士会機械部会の企画として市民フォーラムを 9 月に埼玉大学で開催した。

#### ③ 見学会

平成 29 年度は見学会は 1 回開催した。募集定員近くの方に参加頂いた。

#### ④ その他

新合格者の機械部会会合への参加を促すために、今年も 5 月から 12 月の機械部会主催の会合に 3 回無料で参加できる券（通称パスポート券）を発行し、会合への参加者増加を目指している。

日本機械学会の機械の日行事の一つに絵画コンクールがあるが、その受賞者に副賞としてネジキューブを授与した。さらに同じ機械の日行事として子供たちに自分で工作し、そして作った工作物で遊ぶ楽しさを経験して貰いたいと今年も工作教室を松戸市で開催した。この活動は今年で 6 年目になるが、リピータも増えてきて、かなり地域に密着した活動となってきたと考えている。

機械部会に貢献された長老の方に感謝状（通称機寿賞）と記念品を贈呈している。今年は1名の方に贈呈した。

## 2) 船舶・海洋／航空・宇宙部会

本部会は、日本技術士会で唯一複数の部門で構成されている部会である。主な活動として、奇数月に東京地区において定例部会を開催している。また偶数月に中部本部の航空部会が中部航空部会例会を名古屋・岐阜地区で開催しており、当部会はこれに連携している。定例部会では、通常20名前後が参加し、他部会からの参加者も多い。

### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会・委員会・幹事会は開催せず、計6回の定例部会（5, 7, 9, 11, 1, 3月に開催）にて連絡会を開いて情報共有を実施した。幹事会はメール会議を必要に応じて開催している。

### ② 講演会

講演会は定例部会・例会に併せて開催し、6回の講演会を開催した。併せて、30分の話題提供（技術講演）の場も設けている。

### ③ 見学会

平成29年度は、実施しなかった。

### ④ その他

10月の全国大会（山口）において、中国本部・機械部会と合同部会を開催した。1月の定例部会で第一次試験合格者祝賀会、3月の定例部会で第二次試験合格者祝賀会を実施した。

## 3) 電気電子部会

### ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

- ・部会報告会は、上期（7月）と下期（12月）に2回開催した。
- ・部会幹事会議は2回実施した。
- ・部会幹事、統括本部の常設委員会、実行委員会委員の変更を行った。
- ・日本技術士会第44回技術士全国大会への参加、第45回技術士全国大会への対応の確認を行った。

### ②講演会

- ・講演会を5回開催した。
- ・統括本部での参加者は、電気学会とのCPD活動連携事業の効果を受け506名が参加している。
- ・本年度も引続き、WEB会議システムを活用し3回の講演会を地域本部に配信した。配信先は、東北本部、北陸本部、中部本部、近畿本部、中国本部、四国本部で、参加者は総勢108名であり、好評を得ている。
- ・部会間との連携を深めるため、航空・宇宙部会長を講師として講演会を開催した。

### ③見学会

- ・見学会は5回開催し、合計220名が参加した。毎回、定員を越す申し込みがあった。
- ・全国大会行事に合わせて、部会間、地域組織との連携を深めるため、情報工学部会、中国本部電気情報部会と合同で見学会を開催した。

### ④その他

- ・4月には、電気電子部門の第一次試験・第二次試験合格者を対象とした歓迎会を開催した。
  - ・電気学会と定期的な会議を開催し、相互の会員に直接CPD活動募集のメールを送ることにより、講演会の参加人数を増加している。

## 4) 化学部会

#### ①会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

基本的には、見学会を予定している4月と10月を除き、部会幹事会を毎月第四木曜日の定例講演会の前に開催している。なお、平成29年度の活動を総括する総会（全体会合）は5月の幹事会の後、定例講演会の前に幹事以外の会員の出席者を含めて開催した。

幹事会では今後の講演会等のスケジュールの検討、理事会・委員会活動報告等を行っている。

#### ②講演会

幹事会の後に定例講演会を行っている。講演会は原則奇数月は外部専門家と技術士（化学部門）をセットにして、外部専門家からは幅広いジャンル（e.g. セラミックス、樹脂、バイオテクノロジー、構造解析技術）のご講演を頂き、技術士には自身の業績廻り（e.g. 革新的構造材料、次世代自動車、電子顕微鏡観察技術、化学物質管理）の話題を講演してもらっている。なお、偶数月は現役会員等が参加し易いように夜間に外部専門家を招聘して講演会を実施している。また、本年度は10月の全国大会の専門部会で化学部会が主催する講演会を実施した。

なお、化学部会は他の団体（e.g. 日本化学会、有機合成化学協会、高分子学会）との交流を図るために講演聴講費は会員扱いとしている。

また、例年通り次代の化学部会を担う現役世代（「若手の会」）の技術士を対象とする定例土曜講演会を年2回（7月、11月）実施した。

#### ③見学会

平成29年度は4月と10月の2回見学会を開催した。遠方の日本原子力研究開発機構（茨城県那珂郡東海村）にはバスをチャーターして実施。両見学会には他部会等の方を含め定員前後の参加があった。

#### ④その他

・例年3月下旬に開催される日本化学会春季年会に化学部会のブース展示を行い、日本技術士会、同化学部会の活動を紹介し、会員が著者になっている書籍等を展示している。平成29年度は日大船橋キャンパスで平成30年3月下旬に化学部会はブース展示を実施する。

### 2) 化学物質管理研究会

#### ①会における年次大会（全体会合）・講演会・幹事会

「化学物質管理」に特化した専門知識を習得するため、偶数月に勉強会、事例研究会、セミナーを近畿支部、中部支部との間でWEB中継して開催し、その講演会が終了した後に同じくWEB中継して幹事会を開催している。目的は、同会を母体として立ち上げた（一社）化学物質管理士協会（Pro-MOCS）が平成31年度から実施する「化学物質管理試験」の受験（民間）資格を得るため、および専門知識を深めるためである。総会（全体会合）は5月に開催。技術士化学部門等で、且つ同試験に合格すると「化学物質管理士（Pro-MOCSが商標登録済）」を名づけることができる。

#### ③その他

・「化学物質管理士」資格を基に、実務知識を深め、同資格保有者が企業内のCSR部門で活躍し、独立した管理士団体が優れた業務を行って、同資格保有者のスキルのデファクトスタンダード化が出来れば、技術士化学部門等による専門領域ができることを期待している。

### 5) 繊維部会

例会（講演会や見学会）の終了後に理事会や部会長会議等の報告を行い、部会員の情報共有と連携・強化を図っている。

#### ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成29年度は5月の講演会終了後に、平成28年度の活動報告を行うとともに、平成29年度の部会体制や例会予定などを検討した。CPD参加率を上げるため、例会は原則として毎月1

回、土曜日の開催を基本としている。例会では全体会合・委員会活動・幹事会等を開催し、理事会、部会長会議や各委員会等の報告をして、会員相互の情報共有と連携・強化を図っている。なお、昨年度からは部会員が多い関西地区で全体会議を開催し、意見や要望等を収集・把握している。

## ②講演会

平成 29 年度の講演会は 7 回開催し、総勢 129 名が参加した。講演の技術分野は、素材、加工及び評価という三つの視点で開催することになっている。平成 29 年度は、素材 2 件、加工 2 件、評価 3 件、その他 1 件の講演を行った。他技術分野のトレンドや動向などについても講師を招聘するなどの工夫をしている。繊維の用途は衣料用分野から産業用分野に拡大しており、このため電気・電子部会、環境部会、化学部会や建設部会等からの参加者も多くなっている。

## ③見学会

平成 29 年度は 4 回開催し、63 名が参加した。

- ・ 6 月 9 日、世界遺産に登録された富岡製糸場や高山社跡などを見学するとともに、絹に関連する講演を行った。他部会からの参加者も多く、盛況な見学会であった。

- ・ 9 月 14 日、東京都北区にある（公財）紙の博物館では、ポケットグラインダー、新聞マシン、円網ヤンキー式抄紙機、カミヤ式連続蒸解釜など、貴重な諸設備を見学した。

- ・ 11 月 22 日、東京都目黒区にある防衛装備庁艦艇装備研究所では、展示室、大水槽、フローノイズシミュレーターなど、普段見ることのできない防衛関連の研究設備を見学した。

- ・ 平成 30 年 2 月 22 日、川崎市にある花王(株)川崎工場では、液体合成洗剤の充填・包装ラインや自動倉庫、及び（地独）神奈川県立産業技術総合研究所殿町支所では、今後の展開が期待される光触媒の抗菌・抗ウイルス評価や機能性食品の評価の研究施設を見学した。

## ④その他

- ・ 喫緊の課題である技術士試験受験者の増大に関しては、技術士（繊維部門）オープンセミナーを開催し、技術士資格取得のメリットを説明した。

- ・ 例会等の活動については、繊維製品品質管理士会（TES 会）との共催開催を進めている。一部の見学会では、TES 会員が参加するなど連携が進んでいる。。

## 6) 金属部会

部会長、副部会長、役員の一部交代があったが、金属部会の活動は従来の方針に沿って継続することができ、次年度の活動体制を整えることができた。

### ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

金属部会は平成 30 年秋に“創立 60 周年記念”を迎える。記念行事として記念誌を作成すべく準備委員会を 4 回実施した。定例部会は、毎週第 3 水曜日 18 時～20 時半に講演会と同時に開催、講演会終了後食事をはさんで約 1 時間合計 7 回開催した。役員会は、役員メンバー及び規約変更の承認等、金属部会の重要事項について議論、計 2 回実施した。

### ②講演会

講演会は、合計 8 回実施した。聴講者は、金属部会に限らず、毎回 30～40 名参加、講演内容は、会員が関わっている関連業務が主で、製造技術から利用技術に至る広い範囲にわたっている。

### ③見学会

今年の見学会は、10 月の全国大会（山口市）の前日に、宇部市にある超高温材料研究センターを訪問した。高温材料について、より高い要求性能に応えるため基礎研究からマスプロ一步手前の素材を研究、試作現場も見学させてくれた。翌日は西日本技術士との交流も図れた。

#### ④その他

第一次、第二次試験合格者歓迎会は、7 名の新合格者を迎えて行った。各人がそれぞれの抱負を述べ、先輩技術士との親睦を図った。また、歓迎会の前に定例部会と同様の講演会も行い、新規入会者は金属部会の活動にも触れるようにした。

若手技術者の会「YES-Metals!」は、金属部会の若手を中心とした有志が自主的に会合を開いて活動している。H30 年秋には発足から 9 年余りの短い期間に 100 回という記念すべき時を迎える。金属部会の 60 周年記念と時を同じくして、100 回記念行事を計画中である。

### 7) 資源工学部会

本部会は会員数が 50 名ほどの少人数の部会で、主な活動は原則として 2 ヶ月に 1 回の例会（講演会）と年 1 回の見学会の開催である。また、幹事会は必要に応じて開催している。例会の参加者は、資源工学部会員と他部会員が半々の比率になっており、20 名前後のこじんまりしたものである。内容は、会員或いは有識者の講師による講演（1 時間程度、その後質疑 30 分程度）となっている。

#### ① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成 29 年度の幹事会は平成 29 年 6 月、8 月、11 月に開催し、理事会及び部会長会議の報告、常設委員会委員からの報告等による情報交換、意見交換、部会内必要案件の検討等を行った。

#### ② 講演会

講演会は 6 回（4 月、6 月、9 月、10 月、12 月、平成 30 年 2 月）開催し、合計 108 名の参加者があった。

演題はエネルギー資源及び鉱物資源の開発に関するもの、鉱業全般、地質関係、海外業務経験に関するもの等であった。

#### ③ 見学会

平成 29 年度は 5 月 16 日に行った。高萩炭礦資料館、日鉱記念館を見学した。前年度の見学との関連もあったため、参考になったという感想があった。やや遠方であったため 8 名の参加者にとどまった。

#### ④ その他

4 月の例会時に技術士第二次試験合格者 3 名、技術士第一次試験合格者 1 名の祝賀会を実施した。

### 8) 建設部会

#### ① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成 29 年度も毎月 1 回の割合で幹事会を開催し、理事会報告や懸案事項の協議を通じた意見交換を行い、部会の意見を理事会等へ反映した。

幹事の大半は常設委員会や特別委員会、実行委員会の委員として、また、個別規定による委員会の委員として参画し、各委員会と部会との意思の疎通を図っている。

部会には企画委員会、研修委員会、広報委員会を設け、部会への意見照会等の審議、CPD 行事の企画運営、広報活動を行った。

#### ② 講演会

講演会の企画運営は、部会研修委員会が行い、講演テーマおよび講師の選定、講師との折衝、当日の司会等について、担当者を決め実施した。

平成 29 年度は 8 回の講演会を開催し総勢 347 名が参加した。前年度（平成 28 年度）は、371 名の参加者があり、若干減少する結果となった。これは、機材の不具合による

WEB 会議システムを用いた全国ネットの講演会を実施できなかったことによるものである。来年度は、要望の多い WEB 講演会を再開する予定である。

### ③ 見学会

平成 29 年度は 3 回の見学会（現場研修会）を実施し総勢 74 名が参加した。見学先は、建設技術情報センター（鉄建建設（株））、水素情報館東京スイソミル（東京都）、八ッ場ダム建設工事現場（国土交通省）であった。

### ④ その他

関東甲信地域県支部代表者との意見交換会を 9 月 27 日に開催し、継続的な意見交換および CPD 活動の連携について確認した。

第 44 回技術士全国大会（山口）において、10 月 20 日に、地域本部建設部会との意見交換会を開催した。ここでは、建設部会の運営方針、活動状況および統括本部での活動状況について報告し、情報共有した。加えて、全国大会会場においては、「H29 建設部会活動報告」を関係者へ配布した。

## 9) 上下水道部会

部会活動は、上下水道部門の技術士にとって有益となるような CPD の場を提供する講演会や見学会を中心に実施した。山口市で開催された全国大会では、地元中国地方における上下水道に関する講演会を中国地域本部の上下水道部会と協力して開催した。また、部会主催の講演会は各地域へ WEB 会議システムを用いて中継した。また、講演会は会員が参加し易いように、土曜日の午後と平日の夜を交互に開催するようにし、会員が参加し易い曜日、時間帯を検討してきたが、どちらも一長一短あり、今後も両時間帯、曜日で実施していくことにした。ただし、第一次、第二次技術士試験合格者祝賀会は新合格者が参加し易いように土曜日開催とした。

### ①会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

総会を実施していないので同報メール及び CPD 行事案内で会員に対し幹事会への参加を呼びかけたが、今年度の実績は 5 名のみの参加と余り効果がなかったが、昨年度よりは若干参加者が増加したので、今後も継続していく予定である。隔月開催している幹事会では、講演会、見学会等の企画や結果分析、重要事項の審議及び理事会、部会長会議、各委員会報告を行い、年間 6 回開催した。

### ②講演会

講演会は 6 回開催し、延べ 319（現時点）名（WEB 参加を含む）が参加した。講演会のテーマは上水道関係と下水道関係が片寄らないように配慮した。

日本技術士会入会一年未満の会員は、講演会及び懇親会の会費を無料とした。

### ③見学会

当部会恒例の海外研修は、10 月 10 日から 15 日にブータンを訪問した。ブータンでは首都ティンブーにある JICA の現地事務所を訪問し、我が国の技術支援状況について説明を受けた。また、ブータンの公共事業省を表敬訪問し、上下水道の状況について情報を収集した。その後、首都ティンブー市の浄水場及び下水処理場を視察した。また、JAICA の小規模下水処理実証施設の建設現場も併せて視察した。

## 10) 衛生工学部会

### ① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成 29 年度の幹事会は 2 回実施し、部会の運営方針、年次計画、見学会、講演会の内容に関する協議などを行った。その他、講演会並びに見学会時に部会を実施し、各委員会からの報告を行った。



## ② 講演会

講演会は、6 回実施した。「再発防止対策から未然防止対策への組織構築」、「住宅の省エネルギーについて」、「太陽熱利用の新たな展開」、「ゼロエネルギー建築と居住域空調方式の可能性」、「最近の廃棄物・リサイクル行政の動向について」、「小諸市庁舎等および小諸厚生総合病院エネルギーサービス事業」等について専門分野以外の講演もあり、周辺技術に関する理解を深めた。

## ③ 見学会

多くの会員に興味を持ってもらえるように見学会を 5 回行い、125 名が参加した。部会の専門分野に関連して「キリンビール横浜工場」、「TOTO テクニカルセンター（新宿）」、「防府市クリーンセンター」、「杉並清掃工場（建替）」、「首都圏外郭放水路」の見学会を行った。

IES（The Institution of Engineers, Singapore：シンガポール技術者協会）が 2017 年 5 月に訪日した折に、東京電機大学「スマートシティ見学」、大成建設「技術センター見学」をアレンジし、また技術士会とのミーティングのサポートを行った。

## ④ その他

部会会員の親睦をはかるために、ゴルフ大会を 2 回（6 月、10 月）及び東京湾定点観測（屋形船、8 月）を開催し他部門の方の参加もいただき開催した。

# 11) 農業部会

講演会等の開催を通じ、会員相互のコミュニケーションを促進するとともに部会会員の拡大を図っている。また、部会活動に伴う監事の負担を軽減するため幹事の積極的な登用も進めている。また、関東以外の会員との連携を強化するため関東地区以外の部会員にも幹事への就任をお願いしている。

## ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

平成 29 年度は、定例の幹事会を 5 回開催した。また、これまで例会、講演会開催日の午前中に幹事会を開催していたが、幹事会・部会例会における審議事項、報告事項を整理することにより、幹事会についても午後から開催し、例会まで約 1 時間半で終えることとし講演会の時間を 3 時間以上確保している。平成 29 年度において幹事に新任 6 名を加え（退任 2 名）、部会活動の充実を図った。平成 29 年度末で幹事は部会長、副部会長を含め 41 名である。

## ②講演会

講演会は 5 回開催し、各回約 40 名の参加を得た。4 月の講演会については合格者祝賀会を兼ねて実施し、一次及び二次試験合格者合わせて 10 名の参加を得た。12 月の講演会、忘年会には日本技術士会未加入の技術士にも参加を呼びかけ、会員拡大の一助とした。また、引き続き HP への講演会コンテンツのアップ、講演会の WEB 中継についても対応を行った。

## ③見学会

例年どおり 10 月に実施し、千葉県下鋸南町役場、須藤牧場、千葉県畜産総合研究センター嶺岡乳牛研究所、千葉県酪農のさとを訪問した。参加者は 30 名であった。なお、実施に際しては千葉県技術士会と連携し、3 名の参加を得た。

## ④その他

平成 29 年度中ほぼ 1 年の期間を費やし、部会幹事、部会員及び外部専門家に執筆をお願いし、技術士 CPD 教材「農業・農村・食料をめぐる事情」を完成させた。事務局において編集上の調整を行った後、日本技術士会 HP において会員限定で公開される予定である。農業部門の専門科目として、畜産分野、植物保護分野の受験者の増加を図るため、平成 28 年度に引き続き、学協会等との連携による PR に務めた。部会員が大学等の非常勤講師として講義を行う際に技術士制度、JABEE 制度の説明を行った。

## 12) 森林部会

### ① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会総会は、4月に開催した。平成28年度の部会幹事会議は年5回実施した。「森林部門技術士の活用促進」等について協議をした。

### ② 講演会

講演会は5回実施し、総勢330名が参加した。森林土木、森林環境、林産、林業の専門分野に関する講師を依頼し、実施した。

### ③ 見学会

本年度は実施を見合わせた。

### ④ その他

- ・技術士の活用、契約方式の変化に対応した技術士の活用、継続研修（CPD）の積極的評価について林野庁等に対し陳情を行った。

- ・ホームページ及び同報メールにより講演会の案内、森林行政の動向、部会の動き等に関する情報提供を行い、その拡充を図った。

## 13) 水産部会

部会活動は、CPDの場を提供する講演会を中心に実施した。部会主催の講演会は、参加しやすく予定が立てやすいように原則的に奇数月の第2土曜日とし、同様な趣旨で講演会開催時に技術士第一次試験、技術士第二次試験合格者祝賀会を併催し、また新合格者が参加し易いように土曜日開催とした。

### ① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

部会年次大会は5月に決算報告を主として活動の総括を行い、次年度の活動計画についても提案・議論を行った。

幹事会活動は2ヶ月毎の講演会開催時に併せて行い、理事・部会長・各委員から理事会報告、部会長会議報告、各常設・実行委員会報告を行った。それに対応して部会員による協力援助も実施した。

### ② 講演会

例年通り2ヶ月毎に講演会を開催している。原則、水産に関する専門家を招き講演を行い、講演後に講演者との質疑応答などの自由討論を行っている。さらに講演要旨を水産部会ホームページに掲載するとともに、Pe-CPDシステムにも掲載した。

### ③ 見学会

平成28年度は、開催を見合わせた。

### ④ その他

- ・ジャパン・インターナショナル・シーフードショー（東京ビッグサイト）において無料相談ブースを開設し、3日間で延べ13人の技術士が窓口を担当した。水産技術士の活動紹介パネルを掲示するとともに養殖・加工などの水産技術に関する指導や技術士試験の紹介等を行った。

- ・日本水産学会水産教育推進委員会、（国研）水産研究・教育機構の主催事業に委員を派遣するとともに意見交換を実施した。

## 14) 経営工学部会

平成29年度の部会活動方針として、(A)部会員へのサービス・情報提供、(B)技術士の知名度・社会的地位の向上、(C)地域本部経営工学部会等との連携、を掲げ活動した。(A)ではCP

D機会提供の充実、(B)では経営工学三団体連携活動、東日本大震災被災地復興支援活動に注力した。

#### ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

例会 9 回、幹事会も例会日に 7 回開催した。例会では理事会・部会長会議・委員会の報告や行事案内を行い情報共有を図った。また、事業・収支の報告・計画を議案として年次総会を 6 月に開催した。例会や技術士全国大会を通じて、他部会との交流にも努めた。例会毎の企画シートを作成し、事後の評価と併せて次期の計画と継承に活用している。

#### ②講演会

今年度は 5 回開催し計 291 名の参加があった。CPD の場の提供を目的に「実務研究」、「被災地復興支援」、「業績発表」、「経営工学三団体連携」などテーマを設けて開催した。特に 8 月の AI の技術動向についての講演会では他部会も含めて 100 名を超える多数の参加者があった。

#### ③見学会

7 月に半日、11 月に 1 日の見学会を開催し、計 52 名の参加があった。貨幣鑄造技術や航空技術の進歩と現状を学ぶとともに、顧客のニーズに対応した包装技術を設計し提供する企業を見学した。

#### ④その他

- ・日本経営工学会、日本 I E 協会と三団体連携活動の協議と推進を行った。覚書の更新案を策定する一方、「技術士を目指そう説明会」（東京：12 月、大阪：1 月）を共催した。

- ・被災地復興支援活動として、大船渡市主催の「大船渡なりわい未来塾」（平成 30 年 1 月～2 月）を第 5 期として引き続き担当した。また、三陸鉄道の社長を招き講演会を開催した。

### 15) 情報工学部会

情報工学部会の活動の主目的は、部会員の継続研鑽とヒューマン・ネットワーク構築の支援である。部会運営は、原則として月 1 回の月例会（金曜日 18:30～21:00）と月 1 回の幹事会（月曜日 18:30～20:30）を基本とし、イベントとして、年 1 回の総会、技術士全国大会併設の特別部会、情報処理学会と連携した CPD コラボレーション（講義とワークショップ）等を実施している。

#### ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

5 月 19 日に総会を開催し、事業報告、会計報告及び部会長候補選出選挙を行った。新部会長候補には引き続き現部会長（小山和夫）が選出された。10 月 20 日には、技術士全国大会（山口）に併設した特別部会（マツダ（株）防府第 1 工場見学会）を中国本部電気情報部会、統括本部電気電子部会と共催で実施した。幹事会は計 12 回開催した。

#### ②講演会

本年度は、10 回の講演会を開催した。この内、5 月は総会を兼ねて実施し、7・12・3 月は土曜日の午後を利用し情報処理学会との（覚書に基づく）CPD コラボレーションとして講義とワークショップを実施した。講演会の後には情報交換会を実施し、部会員相互の交流を図った。4 月 21 日と 2 月 9 日は、それぞれ 2 次/1 次合格者祝賀会を兼ねて実施し、多数の新合格者が参加した。10 月には初めての試みとして、弁護士を招いて講義とワークショップ「システム開発におけるトラブルの模擬裁判」を実施し、好評であった。また、5 月と 9 月の 2 回については、地域本部からの希望に基づき Web 中継を行い、地域本部部会員の参加の便宜を図った。

#### ③見学会

本年度は 2 回の見学会を開催した。10 月 20 日に、「マツダ（株）防府第 1 工場」、1 月 17 日に「国立研究開発法人理化学研究所」を見学した。この内 10 月は、既に述べたように、全国大会

併設の特別部会として他部会と共催で実施した。

#### ④その他

情報処理学会と連携し(覚書を締結)、高度 IT 人材育成等について取組みを進めている。6 月 15 日、9 月 22 日、1 月 8 日、1 月 25 に、連携内容(認定情報技術者(CITP: Certified IT Professional)制度における技術士(情報工学)資格の活用等)について両方で打合せを実施した。

この他、新合格者・JABEE 修了者に対して 1 年間有効の部会参加費 1,000 円割引を実施し、部会参加の便宜を図っている他、部会員の交流・意見交換の場として情報工学部会 SNS を運用している。

### 16) 応用理学部会

応用理学部会は毎月定例会(講演会及び見学会)を開催し、本会員及び一般の専門技術者に継続研鑽の場を提供している。近年、多分野の専門技術者が集合している部会の特徴を活かし、地質・地球物理、物理・化学、測地等に関する講演の他、美術・音楽、文学等の専門講師を招いて幅広い分野の講演会を開催している。その結果、2012 年以降参加者が右肩上がりに伸びている。

#### ①部会における年度大会・委員会活動・幹事会

年度大会は 5 月に開催し、1 年間の活動計画を決議した。定例活動は、毎月第 3 火曜日(12 月のみ第 3 土曜日)とし、3 月を除き毎月幹事会、定例会および交流会を実施した。幹事会では、講演会企画および運営の他、理事会、部会長会、および各委員会から依頼された討議事項などを話し合った。定例会は講演会を 11 回開催した。見学会については 29 年度は山口市での全国大会での応用理学部会を行ったため開催しなかった。委員会活動には、常設委員に 8 名、実行委員に 6 名が参加した。

#### ②講演会

当部会の専門領域に限らず周辺技術および美術・経営等幅広い講演を実施した。また、10 月の山口市での全国大会では中国本部応用理学部会と共催で 3 本の講演を開催し、地域技術士との懇親を深めた。12 月には今年地質分野のトップニュースとなった「チバニアン」についてその研究の第一人者の茨城大学岡本誠教授に講演いただき多くの聴講者で例会が盛り上がった。

#### ③見学会

開催なし

#### ④その他

P e - C P D 収録による W E B 登録 3 件、W E B 会議システムを利用した講演 1 件を実施し、地域会員への情報発信を行った。

### 17) 生物工学部会

#### ①部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

幹事会は 8 月を除き毎月 1 回(年 11 回)開催し、講演会、研修旅行、新合格者顔合わせ会の企画など、部会運営に関わる協議をおこなった。10 月の例会を年次大会と位置づけ、日本のバイオ医薬品製造技術の現状と今後をテーマとした講演会を開催した(WEB 会議システムを利用して近畿本部と中国本部に配信)。別途 9 月には、日本生物工学会第 69 回大会に合わせて技術士交流会 in 日本生物工学会@早稲田(東京)を開催した。また北海道地区在住の会員による北海道会を札幌・室蘭で 4 回、東北地区在住の会員による東北交流会を仙台で 4 回、近畿地区では交流会を 3 回、開催した。

#### ②講演会

主催例会・講演会を7回開催した。例年6月におこなっている業績発表会（第21回）の演題数は、特別講演1、口頭発表13（一般講演8、ショートトーク5）、誌上発表2の、合計16であった。

### ③見学会

見学会（夏季研修旅行）を1回開催した。例年7月に地区会員との交流を兼ねた恒例行事として実施している。本年度は石川県金沢市にある日機装株式会社金沢製作所メディカル工場（血液透析関連の製品を製造）ならびに同工場に隣接する（公財）宗桂会の宗桂会館を見学した。

### ④その他

- ・第一次試験新合格者顔合わせ会を大阪、東京、札幌の3会場で開催した（2月）。
- ・第二次試験新合格者顔合わせ会を東京で開催した（4月）。
- ・外部への広報活動として、日本生物工学会（9月）ならびに日本農芸化学会（3月）の各大会会場において、当会および当部会の活動を紹介するポスター掲示やリーフレット配布をおこなった。
- ・日本生物工学会との連携行事として、後援行事（5月）、学生発表討論会へのアドバイザー派遣（11月）、高校生セミナーへの講師派遣（12月）をおこなった。
- ・製品評価技術基盤機構（NITE）との連携・協力の一環として、技術士ポータル（12月）ならびに技術士講演会（3月）をそれぞれ1回開催した。
- ・医薬品等に関する承認・許可取得のプロセスについて検討し情報共有する活動である「医薬品許認可ワーキンググループ」を、2015年から始めている。今年度は勉強会を中心に6回開催し、2名の外部講師からご講演頂いた。

## 18) 環境部会

平成29年度の環境部会の活動は、例年どおり以下の四区分で行事を企画した。

- ・基幹行事：年会、技術交流会、忘年会、歓迎会等、開催月を決めて実施する年間必須行事
- ・定例行事：上記以外に幹事の企画提案に基づいて実施する講演会、見学会等の月次定例会
- ・共催行事：技術士会の他の部会・地域本部、或は学協会の主催する講演会等を共催
- ・運営会議：四半期ごとに開催する行事内容の企画を中心とした幹事会

### ①部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

5月に年会を開催し、年間の活動計画について協議した。その決定に基づいて具体的な活動内容を企画するため、部会幹事による4回の運営会議を開催し、行事予定並びに部会運営に関する懸案事項について検討を行った。また、常設・実行あわせて9の委員会に幹事が委員として参画し、運営会議において状況報告を行うことで情報を共有した。

### ②講演会

月次定例行事の一環として、計8回の講演会（毎回20～40名程度が出席）を開催した。環境問題に関する国内外の動向について環境省や東京都等から講師を招いて実施したほか、大学や企業の研究者、神社関係者による講演をはじめとして、部会メンバーの研究成果報告に至るまで多彩な内容で実施した。

### ③見学会

平成29年度は、公共事業における自然環境保全への取組の事例として、開通間近の東京外かく環状道路を対象に見学会を実施した。

### ④その他

8月及び12月には、基幹行事として技術情報交流会（参加者：19名）と忘年会（参加者：19名）をそれぞれ開催した。技術情報交流会では、当部会顧問の春田章博氏に、見学会のテ

ーマに関連して「新東名高速道路愛知県区間における自然環境保全措置とその効果」について話題を提供していただいた。また、新規合格者向けの活動として、2月に修習技術者支援委員会主催の一次合格者ガイダンスでポスター展示・部会紹介を行った。4月には技術士試験一次合格者・二次合格者の合同歓迎会を開催する。

#### 19) 原子力・放射線部会

原子力・放射線部会では、創立10周年に取りまとめた10年計画に沿って、「3.11事故の反省・教訓を風化させない働きかけ、安全文化醸成に資する活動」、「技術士認知度向上及び技術士数増に向けた活動」、「部会員の技術士活動の支援」、「広報活動」を平成29年度も展開した。

##### ①年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

全体会議を6月に1回開催し、部会内体制の見直し、戦略的情報発信等について活動方針を確認するとともに、組織内における技術士の認知度向上について意見交換を行った。幹事会を7回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方等について議論した。また、各委員会に参加し各活動を推進するとともに、活動状況について幹事会で情報共有を行った。

##### ②講演会

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目を考慮し、福島県オフサイトの課題、1F事故を踏まえた安全対策・規制、1F廃炉の現状と課題、海外の規制基準等に係るテーマを選定して、特別講演会1回、例会講演会7回（安全フォーラムディスカッションを含む）を開催した。

##### ③見学会及び意見交換会

###### ・女川原子力発電所（平成29年5月、7月）

東日本大震災の際、津波対策等が功を奏し、シビアアクシデントを免れた女川原子力発電所の見学会を開催した。本見学会に関連し、約2か月後の例会において、東北電力の安全対策の考え方、普段の取り組み、経営者の哲学やその継承等について意見交換を実施した。

###### ・福島県環境創造センター（平成30年1月）

福島第一原子力発電所の事故を受け、環境の回復・創造に向け、モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流を行う総合的な拠点として設置された同センターにて環境の回復・創造に向けた取り組みを知る見学会を実施した。併せて各企業内技術士会の活動を報告した。

##### ④その他

技術士会内の合格者歓迎会や修習ガイダンスに参加するとともに、技術士制度の認知度を高めるため、大学や原子力学会で日本技術士会を紹介するためのポスター兼パンフレットを配布、掲示した。

技術士制度の理工系学生への認知度向上と受験奨励のために大学のオリエンテーションの機会を利用させていただき、九州大学、福井工業大学、東京工業大学、福井大学、名古屋大学、京都大学、長岡技術科学大学、近畿大学で説明会を実施した（平成29年4月4日～19日）。来年度はさらに東日本地区の大学を重点的に拡充して実施する予定である。

#### (4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、地域本部相互の連絡協調及び地域本部活動の活性化に資するため、地域本部長会議を4回開催した。地域本部長会議の開催状況及び審議事項等、各地域本部等での総会等の会合の回数、地域本部等における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

##### 1) 北海道本部

下記の通り委員会等の活動を行ったほか、北海道本部第 52 回年次大会を開催した。

①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・平成 29 年 7 月 5 日(水)に第 52 回年次大会(参加者 196 名)を開催した。
- ・本部長を含め 30 名で構成される役員による本部役員会を 4 回開催した。
- ・地域委員会（技術士試験、総務、事業、広報、社会活動、地方、防災、青年技術士交流、倫理）を計 89 回を開催した。
- ・各委員会等において研修会・見学会の開催等の C P D 行事（55 回）を中心に活動した。

②行事

- ・統括本部の各委員会・部会主催による講演会等について W E B 中継を行った。
- ・技術者倫理フォーラム「公衆から信頼される技術者になろう」（倫理委員会主催：参加者 78 名）を開催した。
- ・防災セミナー「続く大規模災害から学ぶ」（防災委員会主催：参加者 110 名）を開催した。
- ・平成 29 年講演会「最先端ビジネス思考で人生にイノベーションを」（社会活動委員会主催：参加者 118 名）を開催した。
- ・第 16 回技術フォーラム「地域インフラのイノベーション」（事業委員会主催：参加者 99 名）を開催した。
- ・第一次試験合格者祝賀会（修習ガイダンスを含む）および第二次試験合格者祝賀会を開催した。

③その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・連携・協力協定を締結している北海道 4 工業高等専門学校との連携により、旭川工業高等専門学校にて倫理に関する共同授業を行った。
- ・技術士の社会認知度向上、理科系教育現場の支援事業として、JABEE 認定校 5 校、認定外大学 1 校、工業高等学校 1 校にて講義を行った。
- ・北海道本部会報「コンサルタンツ北海道」を 3 回発行した。

2) 東北本部

東北本部は、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の 6 県に（県）支部があり、地域本部の活動の他にそれぞれが独自の活動を行っている。昨年度は宮城県支部が宮城県との「大規模災害時における協定」を、青森県支部が八戸工業大学との「連携協力に関する協定」を締結するなど、技術士及び技術士会の知名度向上に努めてきた。

去る 2 月 16 日には、仙台市において第 34 回地域産学官と技術士の合同セミナー（テーマ：東北の発展、くらし、産業おこし、まちづくり）を開催し、来賓に宮城県知事の出席を頂いた。

また東北本部の新しい活動として、今年度 4 月から「ふくしま未来委員会」と「男女共同参画委員会」が発足し、それぞれに講演会、シンポジウムを開催するなど、独自の活動を開始した。

平成 29 年度（平成 30 年 3 月 11 日）は、東日本大震災から 7 年目の年の節目を迎えるにあたり、復興の進み具合はどうなっているか？ 残された 3 年（復興省の設立期間）で、どこまで復興が完了するか？ 福島問題を含め、残された問題は何か？ などが問われている。

これを受けて東北本部は、平成 30 年 11 月の、第 45 回技術士全国大会（福島・郡山市）に向け、これまでに 5 回の実行（準備）委員会を開催して準備を進めているが、昨年 10 月に中国本部で開催された第 44 回技術士全国大会（山口市）に、40 名以上で参加することができ、多くの知見を得た。

郡山大会の内容は、別に詳しく案内する予定であるが、今、地元で取組んでいる数々の活動を含め、福島現状を正しく全国の方々に知ってもらいたいと期待している。

さらに東北本部としては、その2年後の日韓技術士会議も福島で開催し、被災地福島の現状を海外に向けても発信できたらと、考えている。①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月6日に70名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め35名で構成される地域本部幹事による役員会を4回開催した。
- ・政策事業、広報、CPD、防災、青年技術士交流、倫理研究、ITS研究、男女共同参画推進、ふくしま未来委員会の9委員会では、それぞれ年2～12回の委員会を開催した。

#### ②行事

- ・東北本部及び建設部会をはじめとする6専門部会及び9委員会が、研修会・見学会等のCPD行事を26回開催した。
- ・2月16日に「東北の発展、暮らし・産業おこし・まちづくり」をテーマとして、「地域産学官と技術士との合同セミナー（仙台）」を開催し、133名が参加した。
- ・技術士第一次試験合格者及びJABEE課程修了者に対する修習ガイダンスを行った。
- ・技術士第二次試験及び第一次試験合格者祝賀会を開催した。

#### ③その他

- ・技術士第一次試験及び第二次試験の宮城会場における実施を支援した。
- ・東北本部会報「技術士東北ーガイヤパラダイムー」を8月と1月の2回発行した。

### 2)-1 東北本部 宮城県支部

#### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・平成29年7月21日に統括本部役員1名、東北本部役員1名を招いて、第6回宮城県支部年次大会を開催した。
- ・支部長を含め20名で構成される役員による支部役員会を5回開催した。
- ・総務企画委員会は、宮城県との防災協定（平成28年7月28日に締結）に基づく活動を企画した。
- ・広報委員会は、支部のホームページの運用及び支部の活動報告を「GAIA」へ掲載した。
- ・防災委員会、環境委員会、技術委員会、豊年技術士懇談会は、研修会、講習会等のCPD行事を企画実施した。

#### ②行事

- ・第6回宮城県支部年次大会時の基調講演の他、研修会、講演会を計6回開催した。

#### ③その他

### 2)-2 東北本部 青森県支部

#### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月1日青森県支部会員106名のうち、45名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め17名で構成される役員による支部役員会を3回開催した。
- ・平成31年産学官と技術士合同セミナー開催実行委員会を1回開催した。

#### ②行事

- ・CPD研修会2回（主催）、見学会を1回開催した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。

#### ③その他

- ・青森県支部会報を11月に発行した。



## 2)-3 東北本部 秋田県支部

### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・9月14日に会員46名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部役員会を3回開催した。
- ・広報委員会は支部の活動報告を「GAIA」へ投稿した。
- ・秋田工業高等専門学校からの技術士制度説明会の講師依頼について、総務委員会が対応。

### ②行事

- ・CPD研修会を研修会4回開催した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。

## 2)-4 東北本部 福島県支部

5月の東北本部全国大会実行委員会立ち上げから、福島県支部が担当する行事委員会としての準備作業を中心に、福島で開催する意義を考えながら、1年を通して支部会員が一つの目標に向かって活動して来ました。また、福島県土木部を中心に福島県内の他団体とも連携し、「福島インフラメンテナンス技術者育成協議会」へも積極的に参画し、これからの担う若手技術者育成に貢献してまいりました。この活動を通して、官との緩やかな連携への足掛かりとしていきたいと考えています。

### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月22日に第6回福島県支部年次大会を開催した。
- ・支部役員会を4回開催した。（4/27, 6/6, 7/27, 12/19）
- ・総務委員会3回、広報委員会1回、技術委員会5回開催した。

### ②行事

- ・技術委員会がCPD研修会（見学会含む）を4回開催した。

### ③その他

- ・技術士試験受験啓発活動として、関係機関・団体等へ受験申込書を配布した。
- ・支部会報「たくみ18号」を平成30年3月に発行予定。

## 2)-5 東北本部 山形県支部

### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・平成29年7月7日に平成28年度山形県支部年次大会を開催した。また、本年度で山形県技術士会発足30周年となることから、山形県知事、東北本部役員を招いて記念式典も併せて開催した。更に、発足30周年記念誌として「技術とともに」を発刊した。
- ・支部長を含め20名で構成する役員による支部役員会を4回開催した。
- ・総務委員会は、年次大会及び30周年記念式典の準備、運営を行った。
- ・広報委員会は、30周年記念誌原稿編集、山形県支部ホームページの更新、GAIA原稿、各講座、現場見学会、年次大会等の報告原稿作成を行った。
- ・技術委員会は、会員の技術力の向上維持並びに県内の技術者の資質向上を目的に、4月19日平成28年度技術士第二次試験合格者4名による「受験体験研修会」の他、年次大会の基調講演、現場見学会、技術教養講座を企画し実施した。
- ・倫理委員会は、技術者倫理の啓発を促す活動として、「技術者倫理ワークショップ」を2回開催した。
- ・社会学習委員会は、建設産業従事者の減少が顕著となっている中で、次世代を担う子供たちたちの「土木離れ」に対処することを目的として、科学技術の原理や面白さを説明し、地域の

小中学校を対象とした出前授業を 5 回実施した。

## ②行事

- ・平成 28 年度山形県支部年次大会時の基調講演の他、見学会、講演会を計 3 回開催した。

## ③その他

- ・5 月 27 日～28 日と 9 月 2 日に山形県建設業協会主催の『1 級土木管理技術検定試験受験準備講習会』（山形県支部後援）に講師 4 名を派遣した。

- ・7 月 22 日～23 日に鶴岡工業高等専門学校制御情報工学科の『実践的デザイン教育演習』に講師 2 名を派遣した。

## 2)-6 東北本部 岩手県支部

岩手県支部では、次に示す方針により継続的に活動を展開している。

- ・自らの資質を向上させるよう、社会の変化に対応した技術の研鑽に継続して取り組む。
- ・岩手県支部の総合力を向上させるよう、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- ・社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- ・技術士活動の継続的な発展が図れるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

## ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会：平成 29 年 7 月 29 日(金)支部会員 35 名が参加して事業計画等を確認した。
- ・役員会：年間 6 回開催し、事業計画や技術士相互の連携強化等について協議した。
- ・委員会：総務、企画、技術、広報の各委員会では、活動に合わせた会議等を随時開催した。

## ②行事

- ・支部主催・共催の講演会を 11 回、各研究会主催の現場研修会を 4 回、技術展示 1 回を開催した。

## ③その他

- ・平成 28 年度に引き続き岩手県が主催するサイエンスシンポジウムに委員として参加すると共にブース展示を行い、小中学生を対象に科学の楽しさを伝え、父母には技術士の活動も PR した。

- ・大槌町「鎮魂の森」整備検討委員会に支部長が委員として参加した。

## 3) 北陸本部

北陸本部では、会員サービス向上はもとより、行動する日本技術士会”として「社会に向けて情報発信」、「社会貢献活動」、「日本列島を襲う自然災害」に向けた取り組みなどの強化推進を進めました。

## ①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、平成 29 年 7 月 8 日に新潟市で開催。「技術士の交流と相互研鑽の場」として捉え、見学会の他、防災委員会・倫理委員会・青年技術士委員・事業委員会の活動報告、特別講演を実施。

- ・地域本部の業務推進にあたっては、8 委員会（総務・教育広報・事業・倫理・防災・試験・地域交流・青年技術士交流委員会）がすべてに参画対応する組織として執行した。

- ・役員会（幹事会）は、「事業執行と予算統制の中で地域本部の対応や運営について、事業計画及び、事業実施確認」等を議題として 3 回開催した。

- ・試験制度委員会は、平成 29 年度の地域の大学・高専等へ技術士試験制度の積極的広報を課題に実施進捗状況と今後の取組を議題に 3 回開催した。

- ・教育広報委員会 3 回、青年技術士委員会 7 回、倫理委員会 2 回、事業委員会 1 回を開催した。

## ②行事

- ・講演会等は8回開催した。講演会は、新潟有資格者懇談会での特別講演会、年次大会での特別講演、防災講演会、CPD講演会、青年技術士委員会企画講演会、北東3地域本部技術士交流研修会、青年技術士委員会新潟県建設関連産業若手パワーアップ小委員会企画の講演会である。
- ・見学会は年次大会時、他学協会との共催、北陸本部主催で、合計4回実施した。

### ③その他

- ・統括本部で企画した講演会・研究会を8回WEB中継した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験の実施を支援した。
- ・地域からの要請に応じ、防災講演・技術研修などに講師を3回派遣した。
- ・技術士制度・試験制度の広報に積極的に取り組み、地域の大学・行政機関等へ試験制度の説明を7回行った。
- ・国土交通省北陸地方整備局との意見交換会を1回開催した。
- ・北陸本部会報「ほくりくの技術士」を3回発行した。

## 3)-1 北陸本部 富山県支部

### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月22日に58名が出席し年次大会を開催した。
- ・役員による富山県支部役員会を4回開催した。

### ②行事

- ・7月22日に第27回講演会、1月25日に支部設立5周年記念講演会（第28回講演会）を開催した。

### ③その他

- ・12月12日に富山大学においてJABEE認定コース在学生及び担当教員に対して技術士制度に関する説明会を開催した。
- ・11月24日に富山県土木部、農林水産部と日本技術士会北陸本部富山県支部が参加し意見交換会を開催した。

## 4) 中部本部

平成29年度は、外部への認知度向上はじめ設定した事業展開の基本方針を踏まえ、中部本部傘下四県支部、委員会そして部会の活性化を目的として事業展開を推し進めた。

### ①年次大会・役員会・委員会活動

- ・第6回年次大会は7月22日(土)に開催した。出席者は78名。
- ・本部長を含む36名で構成された中部本部役員会を6回開催した。
- ・委員会は、倫理委員会10回、総務委員会12回、企画委員会13回、CPD委員会5回、修習技術者支援委員会4回、青年技術士交流委員会7回、独立技術士交流委員会6回、広報委員会3回、活用促進委員会6回、防災支援委員会4回、試験業務支援委員会3回、PL実践研究小委員会6回、理科支援小委員会4回開催。

以上、計83回開催。

### ②行事

- ・CPD委員会が担当のセミナーは夏季・秋季・冬季・春季の4回開催。講師・テーマの選定は、各々、CPD委員会、社会貢献委員会・化学部会、倫理委員会、電気電子情報部会が担当。
- ・修習技術者支援委員会は、中部本部修習技術者研究業績発表会を開催。
- ・企画委員会は、技術士第一次・第二次試験の合同合格者祝賀会を開催。
- ・活用促進委員会は、「技術士活用促進・開業支援シンポジウム」を3年継続して開催。
- ・以上を含め、委員会、部会による講演会は38回、見学会は3回開催した。

- ・また、第37回 地域産学官と技術士との合同セミナーを名古屋市で開催した。

### ③その他

- ・企画委員会は、日本弁理士会東海支部との合同研究会を開催。
- ・倫理委員会は、テクノロジーカフェを12回開催。通算112回開催。また、教育促進小委員会の倫理教育等は、岐阜大工学部、鈴鹿高専、大同大学等8つの大学・高専で実施した。
- ・理科支援小委員会は、理科実験授業研究会を4回開催。小・中学校での特別授業を26回実施。

### 4)-1 中部本部 愛知県支部

本年度は、中部本部愛知県支部として、組織と技術士の認知度を上げることに全力を尽くした。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛け、活動を進めた。年7回の講演会の充実を図り、一般の方が聞きたいと思う講演会活動を模索した。支部で検討してきた成果を発揮できるように、役員・会員が一緒になって活動できる支部を目指し、講演会・発表会・見学会等を8回開催した。

#### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月17日に年次大会を開催（参加者数：43名）
- ・支部長を含む19名で構成された支部役員会を9回開催
- ・委員長を含む7名で構成された企画研修委員会を3回開催
- ・委員長を含む6名で構成された社会貢献委員会を3回開催
- ・委員長を含む7名で構成された総務広報委員会を5回開催
- ・委員長を含む10名で構成された防災委員会を4回開催

#### ②行事

- ・企画研修委員会による講演会を2回、並びに見学会を1回開催
- ・社会貢献委員会による講演会・発表会を3回開催
- ・防災委員会による講演会・勉強会を2回開催

#### ③その他

- ・統括本部主催地域産学官と技術士との合同セミナー（名古屋市）：11月25日にマザックアートプラザで開催（約80名参加）、岩熊副会長出席、実行委員会を愛知県支部幹事会で構成
- ・地域産学官のパネルディスカッションの事前ミーティングや講師との打合せなど8回実施
- ・公明党愛知県本部と団体懇談会（政策要望懇談会）を9月1日に実施、出席者19名
- ・食問題研究会：食に関わる問題の研究及び自己研鑽を11回実施
- ・企業活動研究会：環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究を11回実施
- ・わいがやフォーラム：地域・中小企業支援、技術者の技術テーマについて議論し、12回実施

### 4)-2 中部本部 岐阜県支部

前年度に引き続き、組織と技術士の認知度を上げることを目標に活動をしてきた。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、幅広い分野の講師による講演会の企画・開催を行った。また、中部本部の「明るく、楽しく、役にたつ」のモットーに則り進めてきた。少しずつではあるが、若い会員の参加が増えてきている。

#### ①岐阜県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、5月13日に岐阜大学サテライトキャンパスにおいて開催した。

- ・役員会は5回行った。また、各委員会を同時開催で実施した。
- ・総務委員会は役員会議案対応と財務会計対応を行った。
- ・企画委員会は講演会のCPD行事及び交流会の企画運営を行った。
- ・研修委員会は中部本部関係の研修支援を行った。
- ・広報委員会は岐阜工業会への講演会参加の勧誘とホームページの管理を行った。
- ・活用促進委員会は県内の外部依頼対応を行った。
- ・社会貢献委員会は防災に関する意識の向上を図った。

#### ②行事

- ・講演会活動を年間6回行った。

#### ③その他

- ・岐阜県士業連絡協議会（3回）と岐阜県工業会（2回）の行事に参加した。

### 4)-3 中部本部 三重県支部

平成27年10月1日に発足したが、‘外部に開かれた会員の役に立つ技術士会活動’を目指し運営してきた。

#### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月24日に四日市市で年次大会を開催した。
- ・支部長を含め13名で構成される役員とオブザーバー2名による支部役員会を4回開催した。
- ・企画研修委員会は、講演会、IT講座そして見学会等のCPD行事を開催した。
- ・社会貢献委員会は、サイエンスカフェ、防災講習等のCPD行事を開催した。
- ・広報委員会は、会報「技術士みえ」の発行、ホームページ管理を行った。
- ・総務委員会は会員動向調査、並びに財務会計対応を行った。
- ・活用促進委員会は中部本部三重県支部外部依頼対応要領を作成し、外部依頼対応を行った。

#### ②行事

- ・企画研修委員会による講演会を4回、並びに見学会を2回開催した。

#### ③その他

- ・三重県への協業アプローチを行った。
- ・社会貢献委員会によるテクノロジーカフェを6回開催した。
- ・会報「技術士みえ」を3回発行した。

### 4)-4 中部本部 静岡県支部

平成27年8月に発足した県支部3年目は新しい会員の参加者も増加し、例会・役員会を次のように定例的に開催した。

#### ①年次大会（全体会合）・役員会

- ・年次大会は6月10日に52名が出席し開催した。
- ・支部長以下役員による支部役員会を5回開催した。

#### ②行事

- ・講演会を5回、見学会を1回開催した。

#### ③その他

- ・静岡県内の東部、西部地域例会を各1回(合計2回)開催した。
- ・昨年度締結した牧之原市との「公共土木施設に係る技術助言に関する包括協定」に基づき本年度は研修会2回と技術助言を4回行った。
- ・静岡市との「災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定」に基づき防災ワ

ークショップを3回実施した。

- ・防災教室を1回、テクノロジカフェを11回、小学校での理科授業を6回、防災ワークショップ、防災研修会を2回開催した。
- ・会報を4回発行した。

#### 5) 近畿本部

地域社会に対する科学技術の普及と振興、並びに地域会員に対する継続研鑽の「場」の提供を、活動方針の主目的として以下の施策を実施した。

##### ① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

総務・企画委員会は、三役会と合同で実施している。29年度は、2年間隔の近畿本部体制変更期に当り、5回開催された。

- ・開催日は、奇数月の第一火曜に開催されている。
- ・総務・企画委員会の傘下小委員会として、支部・部会設置支援委員会では、応用理学部会の発足を支援した。

防災支援委員会は、(登録)防災研究会と連携し、災害対策セミナーや近畿災害対策まちづくり支援機構との防災支援活動、および市民への防災学習活動を行なう。

- ・国・自治体との災害支援活動の打ち合わせを実施。(地方整備局:2回、自治体:2回)
- ・近畿災害対策まちづくり支援機構の活動(事務局会議等)に参加。(12回)

(土業団体及び被災者に役立つ“Q&A集”の作成に向けた打ち合わせを実施中)

(徳島県土業ネットワーク協議会との交流会(研修会)に参加)。

- ・統括本部 防災支援委員会及び全国防災連絡会議への参加。(4回)
- ・第11回災害対策セミナー開催(講演会)に伴う準備打ち合わせ(会合)を行う。(6回)

##### 行事

- ・災害対策セミナー(講演会)を、神戸国際会議場において平成30年1月24日に実施した。
- ・テーマ:「大災害に備え、私たち市民・コミュニティは何をするか」
- ・基調講演は、香川大学副学長 白木渡教授
- ・話題提供者は、3名(一般2名、会員1名)
- ・参加者数:104名(一般73名、会員31名)
- ・災害対策セミナー実施に当たり、「ひょうご安全の日推進県民会議」より助成金(11万円)をいただいた。

青年技術士交流委員会は、4/22(委員会打ち合わせ)、7/29(大学生向けワークショップ)、8/19(大学生との座談会)、12/2(大学生向けワークショップ)、2/3(中部の青年委員会との合同見学会)の5行事を実施しました。

科学技術支援委員会は、年間3回招集し、理科実験教室の対応を中心に討議した。

- ・科学技術支援委員は、実演・体験を伴う理科実験教室の開催(4回)を中心に活動した。
- ・統括本部科学技術振興支援委員会主催の「第2回理科実験事例発表大会(平成29年11月1日)」について、近畿本部会場での実演およびWEB中継の運営を担当した。
- ・技術士の社会認知向上・理科系教育現場における支援事業の試行として、大阪市教育委員会から受けた平成30年度講師推薦要請に対して講師募集ならびに人選を進めた。(現在、応募対応中)

日韓技術士国際会議運営委員会は、年間7回招集し、来年度の会議の対応を中心に討議した。

- ・次年度神戸での開催のPRの為、第47回日韓技術士国際会議(釜山)に参加した。

#### 5)-1 近畿本部 兵庫県支部

①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

H29 年度年次大会を、平成 29 年 7 月 9 日（日）に県支部会員 40 名、近畿本部長他 3 名を含む 44 名の出席のもと開催した。役員会は県支部長と近畿本部特別顧問および県支部役員・幹事出席のもと合計 8 回開催した。

県支部委員会は、広報誌編集委員会 5 回、科学技術支援委員会 1 回、総務委員会 1 回、防災支援委員会 1 回の合計 8 回開催した。NPO 法人兵庫県技術士会との有志幹部会合を 4 回開催した。

②行事

県支部主催 CPD 講座および視察（バスツアー）は合計 7 回開催された。

③その他

兵庫県支部の広報誌「支部だより」の第 2 号を平成 29 年 4 月 1 日、第 3 号を 7 月 1 日、第 4 号を 10 月 1 日、第 5 号を平成 30 年 1 月 1 日に発行した。

平成 30 年 1 月 24 日 防災・減災シンポジウム開催に協力した。

6) 中国本部

① 地域本部における年次大会・役員会・委員会活動

- ・ 7 月 15 日(土)に会員 870 名のうち 66 名が出席して年次大会を開催した。
- ・ 本部長を含め 28 名で構成される本部役員会を 5 回開催した。
- ・ 部会活動の活性化による会員拡大を目的に、8 部会では例会とともに、年 1 回の講演会や合同見学会を開催した。
- ・ 企画総務、事業、広報、試験、活用促進、防災、修習技術者支援の 7 委員会では、それぞれ年 1～2 回程度委員会、青年技術士交流委員会は 1 回／月の委員会(講演会を併催)を開催した。
- ・ 本部長、事務局長、事務局次長(企画総務委員長、事業委員長)および事務局員で構成された「事務局会議」を概ね月 1 回のペースで年 10 回開催した。

② 行事

- ・ 「第 44 回技術士全国大会」(10/21～10/23)『維新百五十年～新しい時代を創る技術士の役割～』をテーマに、4 分科会最新技術のテーマに沿った基調講演、論文発表、ディスカッションが行われ、又、アルピニストの野口健氏の記念講演「富士山から日本を変える」をいただいた。
- ・ 2 月 10 日(土)に、技術士第一次試験合格者を集めて、祝賀会を開催した。(参加者 76 名)
- ・ 委員会・部会が CPD のために開催した講演会は 28 回を数えた。また、見学会は 4 回開催し、延 115 名の参加を得た。
- ・ 会員サービスの地域格差是正を目的に、統括本部の委員会・部会・研究会が主催する講演会を積極的に Web 中継し、計 43 回の内 1 回は中国本部から配信した。
- ・ 社会貢献活動の一環として、広島県安芸太田町の小中学生を対象に理科教育を 2 回、青年技術士交流委員会は尾道市内の特別支援学校で「ものづくり教室」を 1 回開催した。

③その他

- ・ 技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・ 中国本部会報を 2 回(9 月、2 月)発行した。

6)-1 中国本部 岡山県支部

「行動し発信し地域に展開する公益社団法人日本技術士会中国本部 岡山県支部」として、技術士の資質向上、社会貢献活動の推進、戦略的な情報発信および地域に密着した活動の展開により、会員サービスの充実と技術士の知名度向上を図り、会員拡大を早期に実現する。

①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・平成 29 年 7 月 29 日岡山県支部の会員 38 名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め 20 名で構成されている支部役員会を 5 回開催した。
- ・事業委員会を 2 回、企画総務委員会 1 回、開催した。

## ②行事

- ・CPD 研修会を研修会 5 回、見学会 2 回開催した。
- ・技術士一次試験及び二次試験合格者合同の祝賀会を開催した。

## ③その他

- ・津山工業高等専門学校に対して、キャリア教育支援(仕事と資格)の講演を 6 回開催した。

## 6)-2 中国本部 山口県支部

山口県支部は平成 29 年 1 月に設立総会を終え、今年度が実質的に 1 年次である。現在は、山口県支部の地域特性を活かした技術士活動をどのように推進するか、模索している状況である。

また、平成 29 年 10 月に第 44 回技術士全国大会(山口)といった大イベントを引き受けることとなり、中国本部と協議を重ね多くの技術士の協力も得て、成功裏に運営を行なうことができた。

### ①支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・平成 29 年 7 月 8 日、支部会員および非会員 22 名が出席して、支部年次大会を開催した。
- ・支部長を含め 17 名で構成される役員による支部役員会を 5 回開催した。
- ・企画総務委員会・事業委員会および事務局は、主として全国大会の準備を進めるとともに(中国本部との協議 4 回を含む)、役員会に諮る議案の検討および会場の手配を行った。
- ・修習技術者支援委員会は、修習技術者への修習セミナー(第一次試験合格者ガイダンス)を開催した。
- ・広報委員会は、広報活動の企画・実施、ホームページによる情報提供を行った。

## ②行事

- ・CPD 行事 3 回(技術士第二次試験合格者祝賀会記念講演会、業績発表大会、技術士第一次試験合格者祝賀会記念講演会)を開催した。
- ・技術士第一次試験合格者および技術士第二次試験合格者祝賀会を開催した。

## ③その他

本年度の事業活動は、第 44 回技術士全国大会(山口)の運営と支援を主たる活動に位置付けて実施した。

- ・徳山工業高等専門学校および宇部工業高等専門学校に対して「倫理教育支援」を実施した。
- ・防府市立小野中学校において、青年部 6 名が理科講座、職業講座を実施した。

## 6)-3 中国本部 鳥取県支部

下記の通り委員会等の活動を行ったほか、鳥取例会では「先端技術が描く近未来」と題し講演会、見学会を開催した。また、修習等セミナーに関して年 3 回の開催を行い技術士を目指す技術者への動機付けを行った。また、県内公民館活動としてクロスロードゲームを通した防災教育の普及、さらに受託事業として公立鳥取環境大学より依頼を受け「メッシュアナリシス」等の研究補助活動を行っている。

### ① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・平成 29 年 7 月 22 日に年次大会(参加者 40 名)を開催した。
- ・支部長を含め 15 名で構成される役員会議を 6 回開催した。
- ・各委員会による研修会・見学会の開催等の CPD 事業を 7 回開催した。
- ・地域活動として公民館での防災教育を 4 回開催した。
- ・鳥取県主催の防災フェスタへ鳥取県支部として参加し技術士の知名度アップを図った。



## ② 行事

- ・平成29年12月9日～10日に関西鳥取例会を行い「先端技術が描く近未来」と題し講演会、見学会を開催した。
- ・技術士第一次試験合格者祝賀会（修習ガイダンス含む）及び第二次試験合格者祝賀会を開催した。

## ③ その他

- ・受託事業として公立鳥取環境大学より「メッシュアナリシス」等の研究補助活動を受託し成果を作成した。
- ・年間を通し地域防災教育活動を以下の通り行った。
- ・8/11 勝部地区防災研修（非会員40、会員8）
- ・9/3 倉吉市自主防災リーダー研修（非会員67、会員17）
- ・11/18 障害者支援施設保護者会研修会（非会員15、会員1）
- ・11/19 西部7町村合同避難所運営訓練（非会員80、会員12）

## 7) 四国本部

四国本部ビジョンで掲げる“5つの事業方針”に基づき、四国らしい特色のある活動を目指し、各県技術士会及び中国本部とも緊密に連携を図りながら次の事業を実施した。

### ①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月5日に高松市で四国本部の正会員371名のうち、80名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め24名の幹事で構成される役員会を4回開催した。
- ・総務（正副委員長会議）、事業、広報、修習技術者支援、防災、青年技術士交流、試験業務支援の7常設委員会では、それぞれ数回の委員会を開催した。
- ・各委員会が講演会・見学会の開催等のCPD行事を中心に活動を行うと共に、社会貢献活動にも積極的に取り組んだ。

### ②行事

- ・地域産学官と技術士との合同セミナー及び西日本技術士研究・業績発表年次大会を開催した。
- ・CPDセミナー・公開講座及び修習技術者支援セミナー、防災講演会、青年技術士交流会を各県持ち回りで開催した。
- ・徳島県海部郡美波町で開催した防災講演会・見学会で地元自主防災組織との意見交換会を実施し、専門的なアドバイスを行った。
- ・平成28年度技術士第二次試験合格者祝賀会を四国4県の会場で、平成29年度技術士第一次試験合格者祝賀会を徳島市で開催した。

### ③その他

- ・技術士試験（香川会場）の実施を支援した。 ・四国本部会報を2回発行した。
- ・JABEE 認定課程教員・学生に対する「技術士制度説明会」を徳島大学理工学部、愛媛大学農学部、高知工業高等専門学校の3校で実施した。
- ・香川県教育委員会が実施する学校防災アドバイザー派遣事業に協力した。
- ・香川高等専門学校との包括連携・協力に関する協定に基づき「学生のキャリア支援のための出前授業」を実施した。
- ・社会貢献活動の一環として、徳島大学及び香川大学等が主催する児童生徒向けの「科学体験フェスティバル」にブース（模型製作実験「消波ブロックをつくろう！」）出展した。

## 8) 九州本部

地域本部では下記のとおり、年次大会、役員会、県支部長会議を開催し、事業運営を進めた。

委員会及び部会、九州全県（福岡県除く）の県支部で、それぞれ定例CPD活動、見学会等に取り組んだ。技術士倫理については小委員会を本委員会へ組織変更し本格的な活動とした。

本年度は、役員改選の年にあたり、本部長以下役員的大幅な改選を行った。

平成29年7月の九州北部豪雨については、防災委員会を中心に緊急調査団を組織し、現地調査を行い、その成果をホームページに公開した。これを機会に福岡県専門士業連絡会（新設）に技術士会として参画し、被災者支援勉強会を続けている。

#### ①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会を7月1日、49名の会員参加により開催した。大会では、熊本地震復興支援会議の活動をテーマ別担当4名から報告した。

- ・本部長を含め26名で構成される役員と6支部長が参加した合同役員会を3回（7月、11月、4月）開催、県支部長会議を1回（9月）開催、三役会議を5回（7月、8月、11月、1月、2月）開催した。これに伴う事務局会議、打合せを33回開いた。

- ・広報・地域産業支援・研修・倫理・防災・青年技術士交流、北九州地区支部支援、試験業務支援の8委員会、みどり・建設・環境・ものづくりの4部会で会議等を42回開催し、合わせて講演会26回・見学会6回（うち北九州地区支部支援委員会の講演会11回、見学会1回）を開催した。

- ・WEB中継による講演会等の聴講11回（延べ49名参加）、会議への参加10回を実施した。

#### ②行事

- ・全国大会（山口）へ倫理、防災、青年、建設の専門部会等へ関係役員が参加し活動概要など報告し意見交換を行った。

- ・本年度は、九州管内での大きな行事はなかったが、30年度、西日本技術士研究・業績発表年次大会（熊本）並びに地域産学官と技術士との合同セミナー（鹿児島）が予定され、それぞれ日程、会場確保など準備を進めた。

#### ③その他

- ・地域産業支援委員会では、機械部会WEB中継に継続参加し、管内関係機関のセミナー出展、審査依頼、技術相談の問合せに対応した。

- ・青年技術士交流委員会では、大学等への技術士試験制度臨時講義、講演会を5回開催した。また鉄をテーマに夏休み親子教室を開催した。

- ・広報委員会では、技術士だより・九州を四半期毎に発行した。

- ・試験業務支援委員会では、第一次、第二次試験の福岡会場における実施を支援した。

### 8)-1 九州本部 大分県支部

下記の通り全体会合、役員会、行事等の活動を行ったほか、九州本部地域産業委員会を通じての依頼により、大分県産業科学技術センターの技術相談に対応した。また、大分県支部ホームページを通じての問合せにより、技術士受験を目指す技術士補に専門分野の技術士を紹介した。技術士議員連盟所属の大分県選出議員事務所ほかに日本技術士会の活動について広報を行った。

#### ①地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月24日にホルトホール大分201会議室にて、会員35名が出席して年次報告会を開催した。

- ・1月20日にホルトホール大分201会議室にて、会員29名が出席して中間年次報告会を開催した。

- ・平成29年5月13日、9月2日、12月2日に大分県支部役員会を開催した。

- ・8月28日、9月4日、9月8日に現地見学会に関する打合せを担当役員が行った。

- ・6月21日、9月28日、10月31日年次報告会および九州本部支部長会議に向けて、大分県支部長・事務局長会議を行った。

#### ②行事

- ・ 6 月 2 日に大分県教育会館で、会員 22 名、非会員 68 名が参加して C P D 研修会を開催した。
- ・ 9 月 2 日に大分県教育会館で、会員 21 名、非会員 48 名が参加して C P D 研修会を開催した。
- ・ 12 月 2 日に大分県教育会館で、会員 19 名、非会員 27 名が参加して C P D 研修会を開催した。
- ・ 10 月 20 日に、日本ジオパークに認定された「おおいた姫島ジオパーク」に関する現地見学会を会員 15 名、非会員 1 名が参加して開催した。

### ③その他

- ・ 9 月 25 日に技術士議員連盟に所属する大分県選出議員事務所のほか、大分県庁、大分県土地改良連合会、大分市役所、大分合同新聞に日本技術士会の活動について広報を行った。
- ・ 10 月 30 日に九州本部地域産業委員会を通じて、大分県産業科学センターからの依頼により、品質管理分野の技術士（電気・電子部門、化学部門）の専門家の紹介を行った。このほか生物工学部門の技術士より返答いただいたが、会社が副業禁止ということで紹介にいたらなかった。

1 月 9 日に大分県支部のホームページを通じて、技術士受験に関する問い合わせがあり、専門分野の技術を紹介した。

## 8)-2 九州本部 鹿児島県支部

### ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

年次大会を 5 月 2 0 日に鹿児島市勤労者よかセンターで、会員 3 6 名が出席して開催した。

支部役員会を 5 月 1 5 日、1 2 月 7 日、3 月 2 2 日に開催したほか、3 月 2 9 日に事務監査を開催した。

研修委員会を 6 月 1 4 日に、業務企画委員会を 1 1 月 2 8 日に、防災委員会を 1 2 月 1 3 日に開催した。

### ② 行事

5 月 2 0 日に第 1 回 C P D、8 月 1 9 日に第 2 回 C P D、1 1 月 1 1 日に第 3 回 C P D、2 月 1 0 日に第 4 回 C P D を開催した。

### ③ その他

JABEE 認定校鹿児島大学に対して「技術士及び技術士試験制度」説明会を九州本部青年技術士交流委員会の協力を得て開催した。

第一工業大学の技術者倫理の講義に講師を派遣した。

## 8)-3 九州本部 宮崎県支部

### ① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・平成 29 年 5 月 20 日ホテルメリージュにおいて正会員 28 名が出席して年次大会を開催した。

（県支部正会員 76 名、準会員 20 名）

・ 幹事 10 名による支部役員会を 1 回開催した。（5 月 20 日）

### ② 行事

・ 講習会(CPD)を 3 回開催した。（8 月 5 日、11 月 2 日、平成 30 年 3 月 3 日）

・ 見学会(CPD)を 1 回開催した。（11 月 18 日）

・ 技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会を開催した。（5 月 20 日）

### ③ その他

・ 平成 29 年度技術士第二次試験願書配布及び技術士制度等説明会を開催した。（4 月 8 日）

## 8)-4 九州本部 佐賀県支部

佐賀県支部の運営方針である「会員の倫理の啓発、資質の向上、品位の保持に努め技術士制

度の理解と技術士の知名度・地位の向上、技術士の活用促進、会員の増加を図り、地域の発展・活性化に資する」ことを念頭に活動を行った。

①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

○年次大会

日時：平成29年5月27日（土）12:30～13:30 場所：佐賀城本丸歴史館

参加人数：37名（内委任状24名）

○役員会

第1回：平成29年5月25日（役員11名中6名出席）場所：佐賀城本丸歴史館

第2回：平成29年7月14日（役員11名中5名出席）場所：市民活動プラザ

第3回：平成29年8月3日（役員11名中8名出席）場所：（株）親和テクノ会議室

第4回：平成29年11月15日（役員11名中9名出席）場所：（株）親和テクノ会議室

第5回：平成30年2月23日（役員11名中10名出席）場所：（株）親和テクノ会議室

②行事

○平成29年度第1回CPD（技術懇話会）；平成29年5月27日（土）14:00～17:00

佐賀城本丸歴史館、参加人数 31名

テーマ1．「佐賀低平地の形成と伝統的治水技術並びに気候変動下の防災・減災について」

大串浩一郎氏（佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授（博士））

テーマ2．「有明海沿岸地域の技術的課題と沿岸道路整備の対策と防災」

南里勝氏（株式会社 精工コンサルタント防災管理担当部長 博士、技術士）

○平成29年度第2回CPD（技術懇話会）；平成29年11月25日（土）14:00～17:00

佐賀県立宇宙科学館、参加人数 29名

テーマ1．「九州北部豪雨から考えるこれからの気象」

松嶋憲昭氏（株式会社 富士ピー・エス顧問 技術士）

テーマ2．「佐賀県の災害時ドローン協定にみる ICT そして IoT がつくる近未来社会」

円城寺雄介氏（佐賀県政策部企画課係長）

③その他

○広報活動

佐賀建設新聞新春特集号投稿（平成30年1月1日）

公益社団法人 日本技術士会佐賀県支部支部長名：テーマ「技術士とは」

8)-5 九州本部 熊本県支部

熊本県支部活動の目標・方針として下記の4本の柱を立てている。

- ・地域の課題解決を支援する。
- ・技術士を知ってもらう。
- ・技術士を育てる。
- ・技術士として研鑽を積む。

①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・6月17日熊本県支部設立式典に続き第4回年次大会を開催した。参加者は熊本県支部会員82名のうち27名であった。

・支部長を含めて10名で構成される役員による支部役員会を8回開催した。

・新エネルギー研究部会を4/5、4/21、5/13、6/8、7/22、10/10 の6回実施し、本年度の調査・研究成果をCPD研修会で発表。

②行事

・支部会員が主体としたCPDを3回開催した。

- ・熊本大学工学部学生に対して、熊本県支部技術士3名によるキャリアデザインセミナーを各学科に分けて1月10日と11日の2日間開催した。

### ③熊本地震復興支援活動

- ・4月9日～10日 平成28年(2016)熊本地震 日本技術士会の現地調査及び復興に向けての支援活動(方針)報告書を上益城管内及び阿蘇管内の県市町村に配布した。
- ・7月19日阿蘇市から手野林道落石カ所に対して技術相談があり、現地調査を行い7月27日に現地の落石状況と対策の報告書の提出を行った。
- ・11月28日熊本市川口町 熊本地震により地下水が活性化して水田の排水不良対策として暗渠の清掃技術を創造的復興提案技術として実演会を開催した。

## 8)-6 九州本部 長崎県支部

「会員の資質の向上、異分野技術士の交流促進、技術系人材育成等」を主な活動目標として、以下の活動を実施した。

### ①県支部における年次大会(全体会合)・役員会

- ・6月10日(土)、支部会員116名のうち、35名が出席して年次大会を開催した。
- ・11名からなる幹事による幹事会を6回(4, 6, 8, 10, 12, 2月)開催した。

### ②行事

- ・研修会3回、見学会2回のCPD行事を開催した。

### ③その他

- ・長崎大学 JABEE 認定プログラム第3回講義に若手技術士及び公務員技術士を派遣した。

## (5) 関東甲信地域の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、関東甲信地域における県支部相互の連絡協調及び県支部活動の活性化に資するため、支部長会議を開催した。各県支部での年次大会等の会合の回数、県支部における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

### 1) 神奈川県支部

「技術者倫理に基づき、資質向上のため継続研鑽に努め、地域社会に対する貢献を通して国民経済の発展に寄与する」ことを基本理念として地域において技術士の知名度向上の活動に取り組んだ。

#### ①支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・7月27日に神奈川県支部年次大会開催し、交流会に地域の関係諸団体の関係者をご招待した。
- ・支部長を含め27名で構成される幹事による神奈川県支部役員会11回開催した。
- ・4委員会及び9小委員会毎に月1回開催した。

#### ②行事

- ・神奈川県で開催される展示会(テクニカルショウヨコハマ2018、ビジネスオーディション及びテクノトランスファーin かわさき2017)に出展、出展者セミナーを開催し、本会及び技術士の知名度向上に寄与した。
- ・一次試験・二次試験合格者祝賀会開催した。
- ・CPD講演会を10回、テクノセミナー3回、見学会2回、情報交流の会5回、オープンテクノフォーラム1回、地域産業活性化研究会1回開催した。
- ・理科教室1回、サイエンスカフェ1回開催した。
- ・技術士への道ガイダンス2回(一般対応1回、学生対応1回)開催した。

### ③その他

- ・平成 30 年 1 月 23 日新年賀詞交歓会を開催し、地域諸団体の関係者をご招待した。
- ・技術士一次・二次試験神奈川試験会場への対応を行った

### 2) 埼玉県支部

当期当支部は事業収入が当初想定より少なくなったが、本部からの新たな対外活動支援費等もあり活発な活動を行うことができ期初計画以上の成果を達成することができた。

#### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会：新旧幹事の交代に当たる大会を 7 月 29 日（土）に「チャレンジする技術士」として開催、本部西村文夫常務理事からの講演も好評であった。
- ・役員会：基本的に偶数月開催で臨時も含め 7 回開催、議案、報告事項等議論した。また役員会のない奇数月は支部長、各委員長による情報交換を 6 回実施した。
- ・委員会：5 委員会で計 60 回の委員会を開催した。

#### ②行事

- ・5 月 27 日：技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同祝賀会を実施
- ・7 月 14 日：技術課題相談会 in 越谷 相談員として 8 名の技術士が参加
- ・8 月 6 日：独立行政法人国立女性教育会館主催理科教室に参加
- ・10 月 14 日：埼玉県立総合教育センターでの常設展示の他、公開理科教室開催
- ・10 月 19 日：第 14 回埼玉北部地域交流会に参加
- ・11 月 8 日、9 日：「BIZ SAITAMA さいたま市産業交流展 2017」に新規参加
- ・11 月 11 日：埼玉県産業教育フェア参加
- ・11 月 9 日：技術課題相談会 in さいたま新都心 相談員として 8 名の技術士が参加
- ・1 月 24 日、25 日：彩の国ビジネスアリーナ 2018 に参加
- ・2 月 14 日：技術課題相談会 in 川越 相談員として 8 名の技術士が参加
- ・2 月 24 日：第 4 回彩の国産業活性化交流会～ニーズとシーズのマッチング～を開催
- ・3 月 24 日：県内企業及び機関・団体に対し技術士資格取得説明会（制度説明会）を実施
- ・平成 29 年度から 3 年間埼玉県で開催される「科学の甲子園」への協力
- ・講演会を CPD 以外も合わせ 17 回、見学会は 2 回開催した。参加者は延べ（669）名でした

### ③ その他

- ・広報誌「彩の国技術士」を 4 月、10 月 2 回発行した。
- ・学生及び教員に対する技術士制度説明会を埼玉大学で 2 回（4 月 14 日&12 月 15 日、参加者計 140 名）、東京電機大学で 2 回（6 月 22 日&9 月 30 日、参加者計 63 名）実施した。
- ・県内各地域商工会議所・商工会連携活動を積極的に行った。

### 3) 長野県支部

#### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7 月 8 日（土）、県支部会員 221 名のうち、37 名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め 15 名で構成される役員による支部役員会を 6 回開催した。

#### ②行事

- ・CPD 研修会を 6 回（うち 1 回は見学会含む。うち 2 回は実習を含む。）、開催した。
- ・4 月 8 日（土）、技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格者祝賀会を開催した。

### ③その他

- ・支部会報を 3 月に発行した。

#### 4) 山梨県支部

##### 山梨県支部の活動方針

1. 地域密着型の積極的な技術士活動の促進による地域貢献
2. 環境・安全・防災・景観等、社会性の高い技術研究・支援活動の推進
3. 社会的ニーズに応え得る技術士の研鑽活動
4. 技術士の更なる知名度向上
5. 新技術開発や技術支援活動の組織化による技術士の事業領域拡大

##### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

平成 28 年 5 月 28 日に年次全体会合を開催し 事業実績・会計報告、27 年度事業計画等報告した。役員会は全 8 回開催し、年度計画と予算、各行事の実行計画と手配等を進めた。

##### ②行事

・山梨県産業技術支援交流会 2017（10 月 17 日）：県の主な部局、公的支援機関等 25 名を招待して事例研究発表会を開催した。

・CPD としては講演会 4 回、会員 8 名による研究発表会（15 分ゼミナール）1 回、見学会 1 回、を開催した。

##### ③その他

主要な対外活動（会員以外や一般社会向け）

- ・工業系技術力向上対策事業連携推進委員会への委員派遣（副委員長） 2 回
- ・甲府市地球温暖化対策地域協議会への参画（会長） 複数回
- ・平成 29 年 10 月 18 日 山梨県産業技術支援交流会 2017
- ・平成 29 年 11 月 9 日～11 日 山梨テクノ ICT メッセ 2017（山梨県最大の産業展）出展
- ・平成 30 年 2 月 1 日 支部報第 6 号発行
- ・山梨県環境保全審議会地球温暖化対策部会に委員を派遣 2 回

#### 5) 千葉県支部

本支部は千葉エリアに密着した活動を進め、技術士の知名度向上、経済社会の発展ならびに科学技術の向上に努めた。

##### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7 月 17 日に 45 名が出席，千葉県庁技術士会，船橋市役所技術士会および千葉工業大学技術士会を来賓として年次大会を開催した。
- ・役員会は 10 回開催，9 月より月曜夕刻の開催とした。なお，役員会の前に委員長・チームリーダー会議を開催し議事進行の円滑化を図っている。
- ・各委員会・チームはほぼ毎月，活動のための会合を開いており，これらの予定は Web サイトで公開している。

##### ②行事

- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を 5 月に開催し，支部活動を紹介した。
- ・防災講演会を佐倉市の地域住民を対象に 2 月に実施し，また，マンション自治会向け防災講演を 6 回実施した
- ・理科教育支援は 6 月と 10 月に千葉市で 3 ブースを出展，その一つは京葉工業高校生徒と共同で無電源ラジオの工作で児童を指導し 10 月に審査員特別賞を受賞した。また，5 月と 11 月にも㈱ウェザーニューズ主催の 2017 年チャレンジング SHIRASE 年次イベント

に、京葉工業高校と共同で教材無電池ラジオ工作を出展。2月にはスーパーサイエンスハイスクールに指定されている長生高校で技術士として授業を行った。

### ③その他

- ・千葉市役所との防災協定を平成29年6月19日に熊谷俊人千葉市長と松井隆千葉県支部長とで締結、協定書名は「災害時における応急対策及び災害復興の協力に関する協定書」。これに基づき地域防災の勉強会を毎月1回開催中。
- ・Web会報を2回発行、新規合格者の紹介、会員の技術士業務の紹介、業務に役立つノウハウ等を掲載

## 6) 茨城県支部

### (1) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・茨城県支部会員が参加して年次大会を開催した（7月30日）。また、支部役員会を毎月開催した。
- ・総務委員会では、支部役員会や年次大会の開催事務、支部会計等の事務局活動を行った。
- ・広報委員会では、行事案内、活動状況報告などを支部ホームページに掲載した。支部会報を作成しホームページに掲載した。支部パンフレットを改定し、関係機関に配布した。
- ・業務・地域貢献委員会では以下の活動を行った。
- ・理科教育支援小委員会を中心に「霞が浦環境科学センター夏祭り」（8月26日）、「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」（11月4日～5日）に出展した。また、茨城県生涯学習センターの「おもしろ理科先生派遣事業」に理科講座を登録し、県内の小学校、図書館、科学館等からの要請により理科支援を行った。
- ・IoT推進支援小委員会を新たに設置した。IoT推進支援小委員会では「茨城県IoT推進ラボ」の構成機関として、ラボの役員会議・担当者会議への出席ほか、他支援構成機関と連携した啓発活動、情報共有を行った。
- ・研修委員会では、継続的にCPD行事を開催するとともに、修習技術者支援小委員会で、修習技術者交流会を開催するなど、修習技術者への支援を行った。
- ・県南委員会は、各委員会と連携をとりながら県南地域密着形の活動を行った。県南地域の小学校、文教施設からの要請を受け、科学実験教室に講師を派遣した。

### (2) 行事

- ・「技術士一次・二次試験平成28年度合格者祝賀会・講演会」（4月1日）を開催した。
- ・年次大会での「講演会・交流会」（7月30日）を開催した。
- ・「新年講演会・交流会」（1月27日）を開催した。
- ・「技術士CPD講座」を6回開催した。また見学会を1回開催した。
- ・「修習技術者交流会」を5回開催した。
- ・平成30年10月開催予定の世界湖沼会議を積極的に支援するために、支部に「世界湖沼会議プロジェクト」を設置し対外活動を行った。また、茨城県等の関係機関と連携し、世界湖沼会議開催に向けた準備活動を行った。
- ・「オープンテクノフォーラムいばらき2017」（12月23日）を開催した。また「いばらきIoTコ・ラボ勉強会」を4回開催した。

### (3) その他

- ・茨城県県南生涯学習センターが開設している県民大学講座において、「日本一の技術士たちが語る ～世界に誇る茨城の技術～」をテーマとした10回連続講座に講師を派遣した。
- ・統括本部防災支援委員会が作成した「地域減災作成ガイドブック」を用いて、常総市水害の被災地域自治会等が行う防災マップ作成の支援（2月3日）、避難訓練の支援（2月10日）



を行った。

- ・茨城大学工学部(JABEE 認定) の要請で「技術士活動紹介」(12 月 22 日) を行った

## 7) 栃木県支部

“会員の顔の見える会”と“地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”をモットーに支部活動を行った。特に、会員のための講演会、研究会等を充実するとともに、中小企業のために産・官・学の連携に努めた。

### ①年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6 月 3 日年次大会（全体会合）を支部会員 188 名中 31 名、新合格者 8 名、協賛団体 9 名の出席で開催した。本年は、大変多くの参加者となりました。
- ・年次大会に併せて講演会、報告会を開催し参加者は 55 名であった。また、講演会等終了後、祝賀会及び新合格者歓迎会を開催した。参加者は新合格者 8 名を含め 54 名であった。
- ・見学会は、NEXCO 東日本バイオマス発電プラントの見学を行った。
- ・支部長を含め 15 名で構成される役員会を 10 回開催した。
- ・各委員会では必要に応じて委員会を開催した。特に、国際委員会、環境支援小委員会では月ごとに例会を開催するなど、積極的な活動を行った。

### ②行事

- ・企画・研修委員会では、11 月に産総研名誉リサーチャの森和男氏を講師に「IoT にもものづくり中小企業はどう立ち向かうか」の科学技術講演会、12 月に講演会・報告会・交流会、平成 30 年 2 月には技術士を志す方への情報提供講座を開催した。
- ・国際委員会では、毎月例会を開催するとともに、6 月に第 7 次浙江省訪問団を派遣し、11 月には浙江省科学技術訪日団一行を招聘した。
- ・浙江省科技訪日団（文科省、さくらサイエンス事業）を 11 月 19 日～25 日で県支部主体で対応し、県内企業訪問、日光観光等の対応を行い文科省行政対応に貢献した。
- ・環境支援小委員会では、環境問題への取り組みとして 5 月 21 日に「フェスタ my うつのみや 2017」へ参加し「わくわくどきどきサイエンス」を開催し、低学年児童向け物造り教室を実施した。理科教育の一貫としてサイエンスカフェを開催（9 月 10 日エンジョイカガク出展（帝京大宇都宮キャンパス：参加者 121 名）、10 月 8 日宮っこフェスタ出展、11 月 3～4 日 ECO テック&ライフとちぎ 2017、）し、Mg 電池ミニカー製作、コイルモータ製作などを体験させた。また、地域再生等を目的とした市貝町プロジェクトを展開し、キンブナ養殖、多田羅沼の水質保全について議論した。更に 6 月 4 日に宇都宮市鶴田沼緑地見学会を開催した。

### ③その他

- ・業務委員会では、宇都宮大学企業交流会に参加するほか、県産業振興センター創業希望者交流サロンの支援機関として積極的に支援した。
- ・平成 29 年度補正ものづくり支援事業への審査協力を 4 月、9 月に実施した。
- ・県産業振興センター主管の業務受託システムへ 3 名の専門家を派遣し業務受託を行った。
- ・広報委員会では、8 月に会報第 11 号、1 月に会報第 12 号を発行したほか、支部ホームページを更新・管理を行った。

## 8) 群馬県支部

### ①支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7 月 21 日に群馬県支部全体会合（出席者 17 名）を開催した。
- ・群馬県支部役員会を隔月で開催し、重要事項の審議を行った。
- ・総務委員会、企画研修委員会、広報委員会を必要に応じて役員会開催と同時に実施した。

### ②行事

- ・一般にも公開し CPD 講演会を 3 回、見学会を 2 回開催した。
- ・講演会は、5 月 26 日（一般を含め 98 名が参加）、6 月 30 日（一般を含め 108 名が参

加)、7月21日(一般を含め24名が参加)に開催した。

・工場見学会は平成29年10月20日(一般を含め14名が参加)にサンデンホールディングス(株)サンデンフォレスト・赤城工場で、また、平成30年2月16日(一般を含め22名が参加)にハッ場ダム工事現場で実施した。

③その他

・会報第10号を9月に発行した。

以上